

SmartConnect Cloud Platform (Type-B) リモートコンソールユーザーマニュアル

(第 1.1 版 2026 年 3 月 25 日版)



目次

1. はじめに	3
1.1. 本マニュアルについて	3
2. リモートコンソール操作	3
2.1. リモートコンソールのログイン	3
2.2. リモートコンソールのログアウト	6
2.3. サーバーへの仮想アクセス	7
3. ディスクの設定	8
3.1. RAID 構成の作成	8
3.2. RAID 構成の削除	18
4. OS インストール(Intelligent Provisioning)	20
4.1. OS インストール(Intelligent Provisioning)	20
5. OS インストール (UEFI)	32
5.1. OS インストール (UEFI)	32
6. Tips	36
変更履歴	41

1. はじめに

1.1. 本マニュアルについて

本資料は、NTT スマートコネクトが提供する「SmartConnect Cloud Platform (Type-B) 」(以下、本サービス)におけるリモートコンソールユーザーマニュアルです。また、お客様のお手元にある開通通知書に記載されているリモートコンソール IP アドレスも併せてご確認ください。

2. リモートコンソール操作

本サービスをご利用するには、最初にリモートコンソールへのアクセスが必要となります。

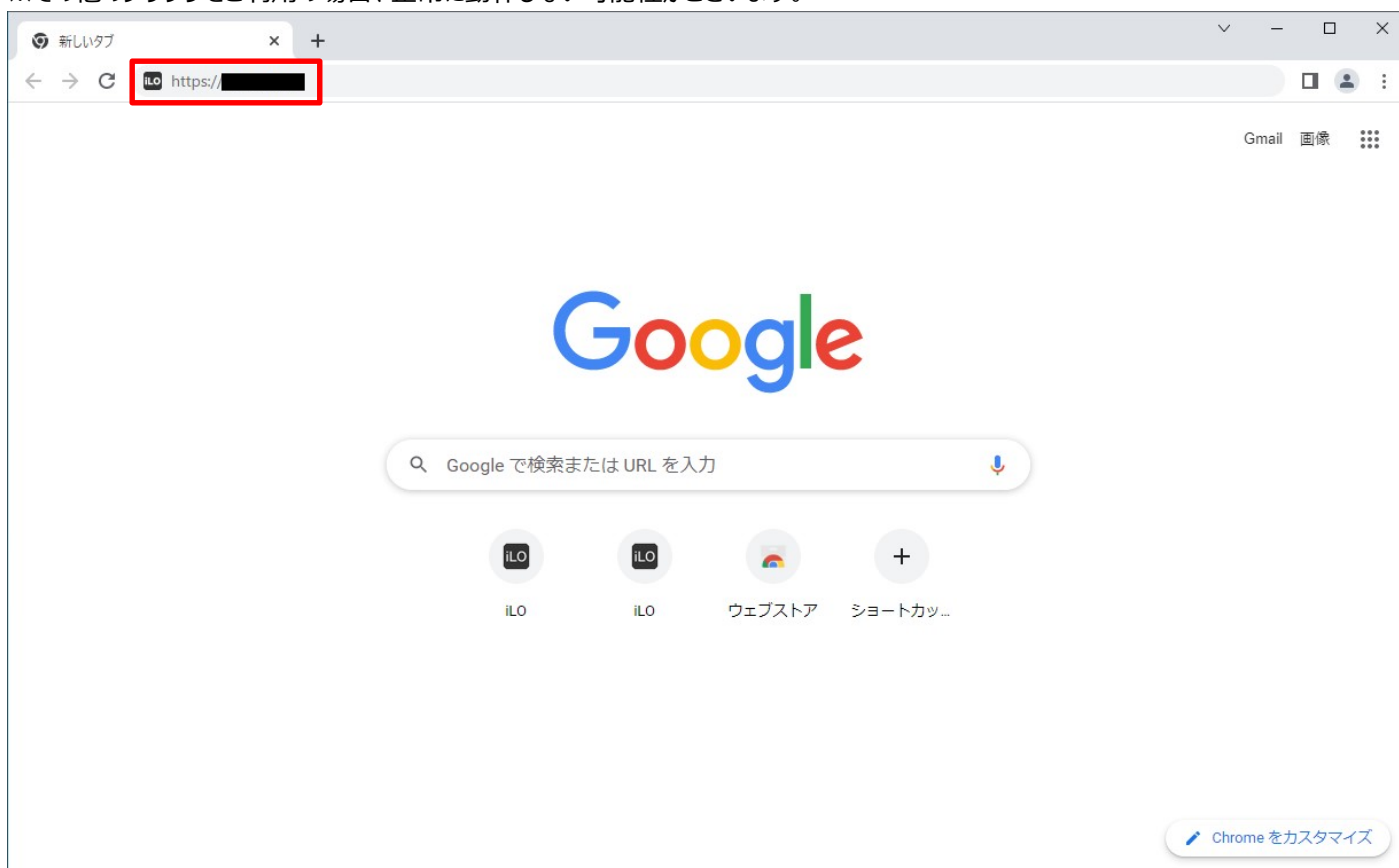
本章では、リモートコンソールのログイン、ログアウト、及びサーバーへの仮想アクセス方法について説明します。

2.1. リモートコンソールのログイン

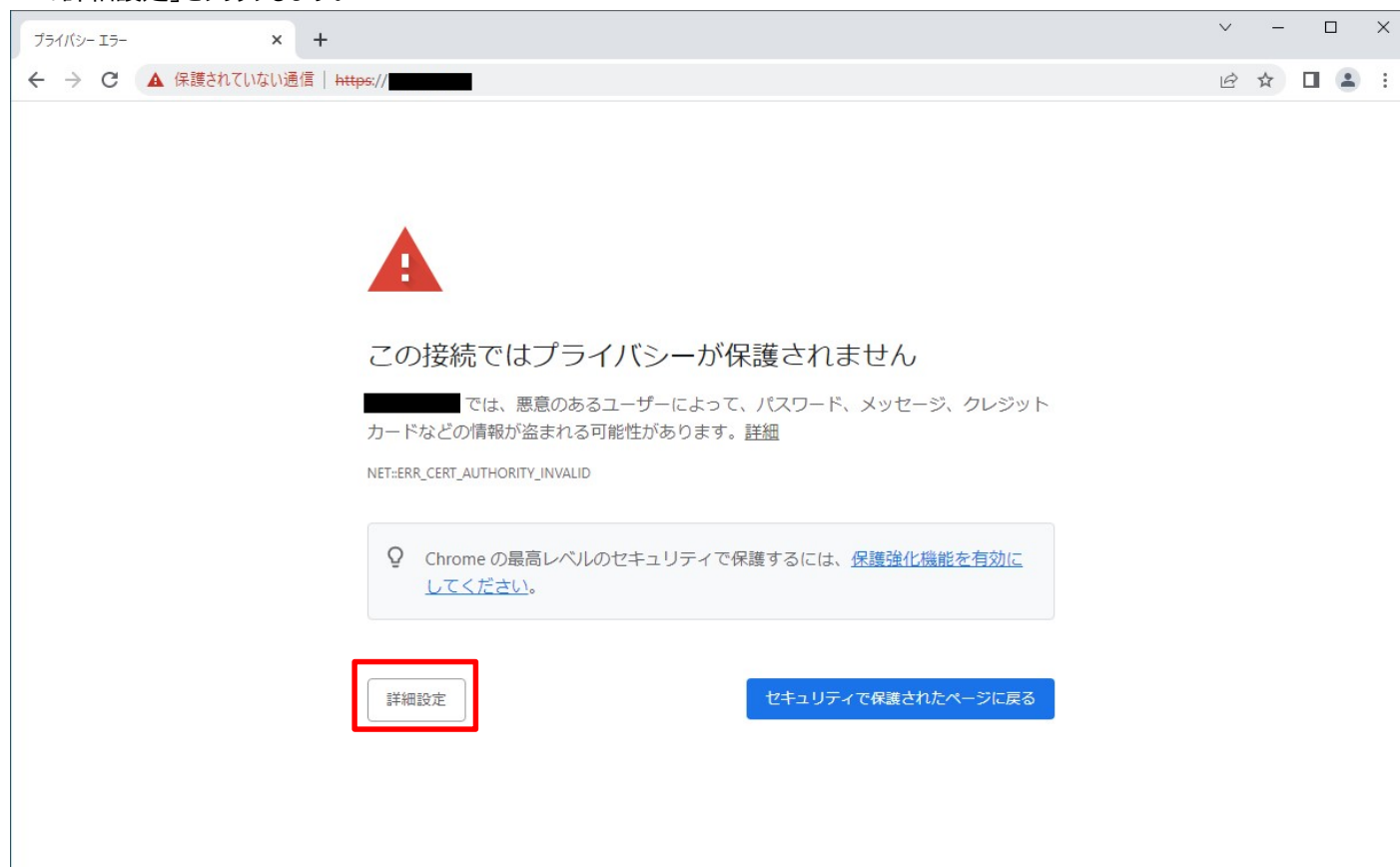
1. Chrome もしくは Microsoft Edge を起動し、開通通知書上のリモートコンソール IP アドレスを確認し、ブラウザの URL 欄に「[https://\[リモートコンソール IP アドレス\]](https://[リモートコンソール IP アドレス])」を入力します。

※<https://>を入力しないとアクセスできない場合があります。

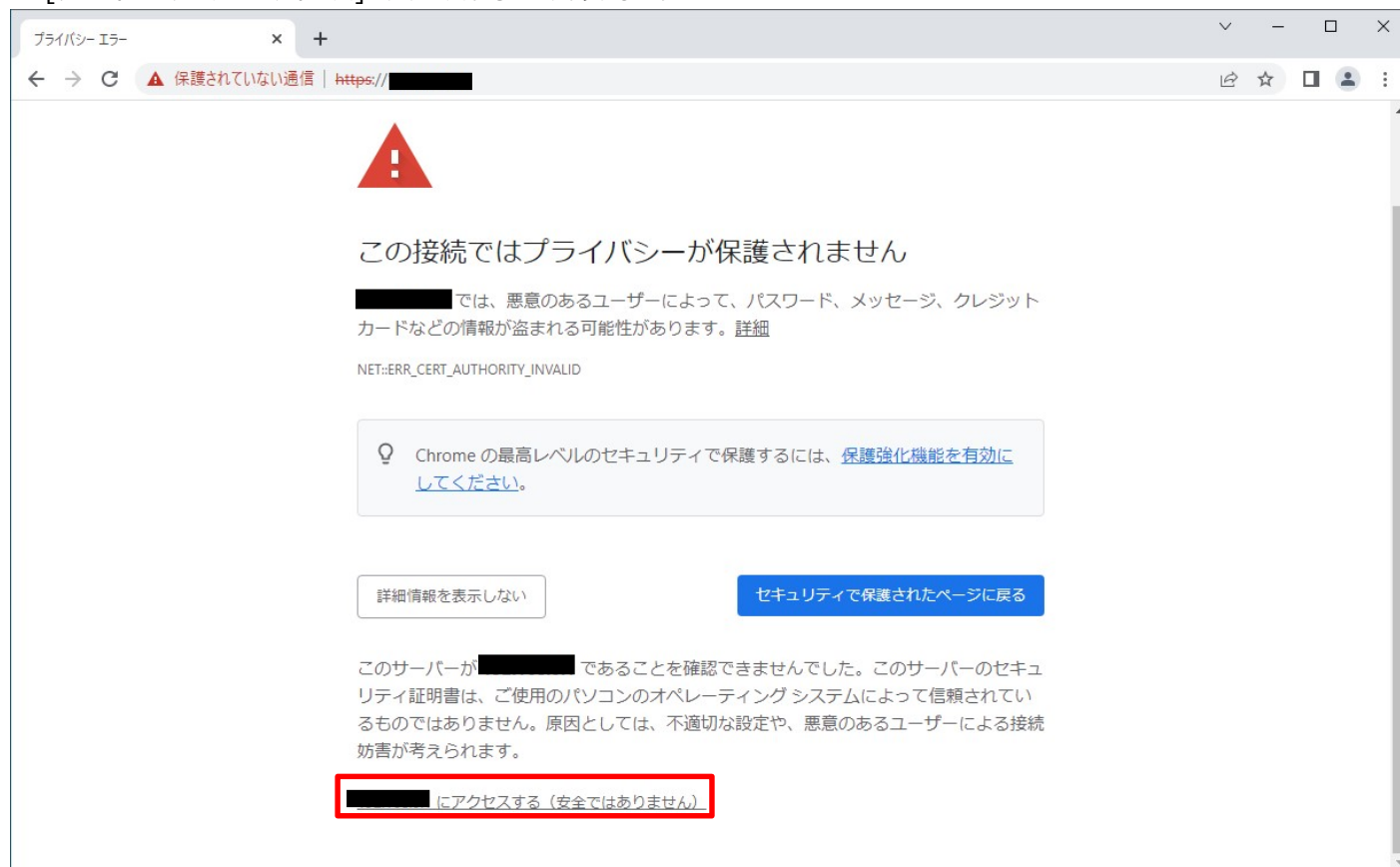
※その他のブラウザをご利用の場合、正常に動作しない可能性がございます。



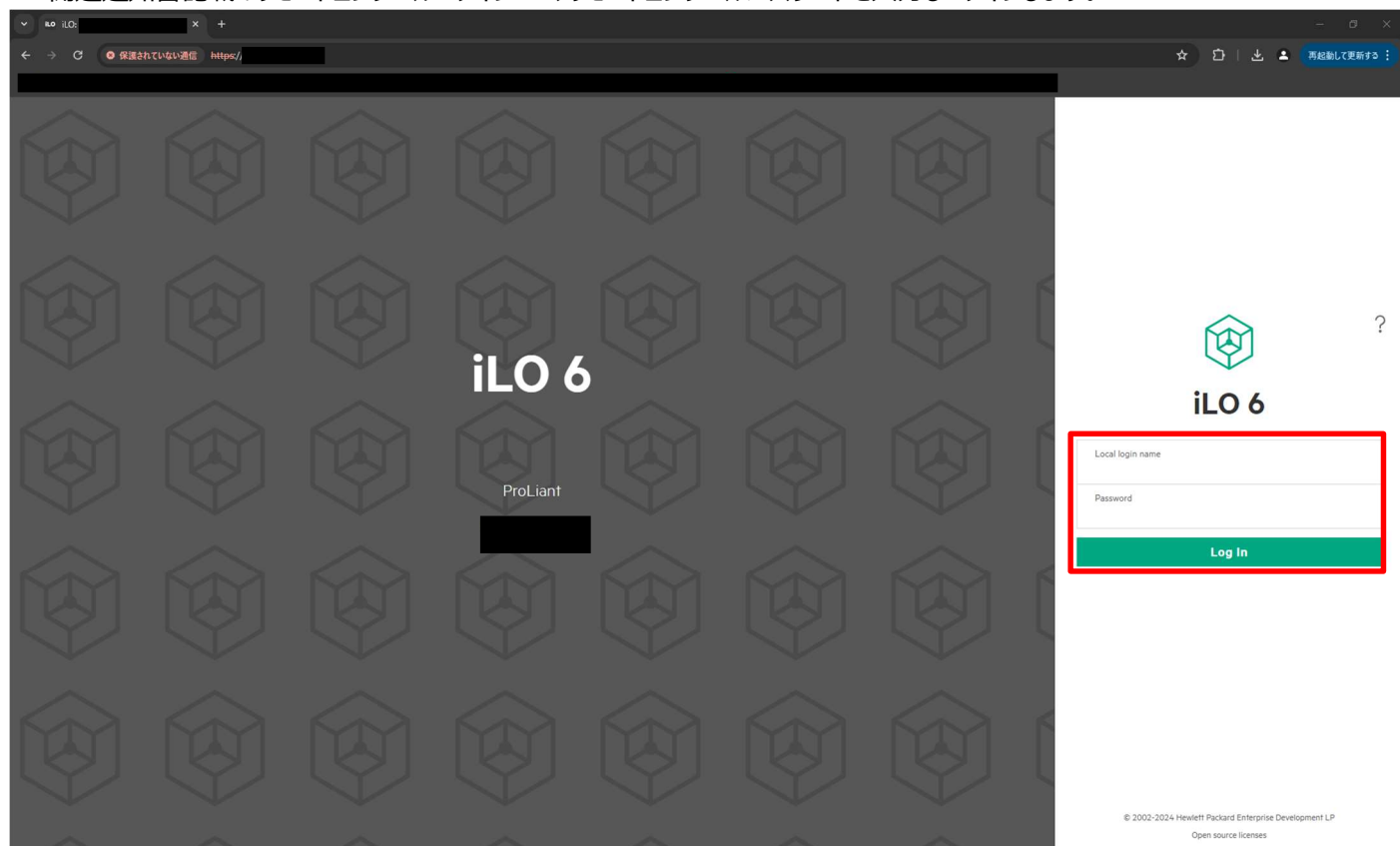
2. 「詳細設定」をクリックします。



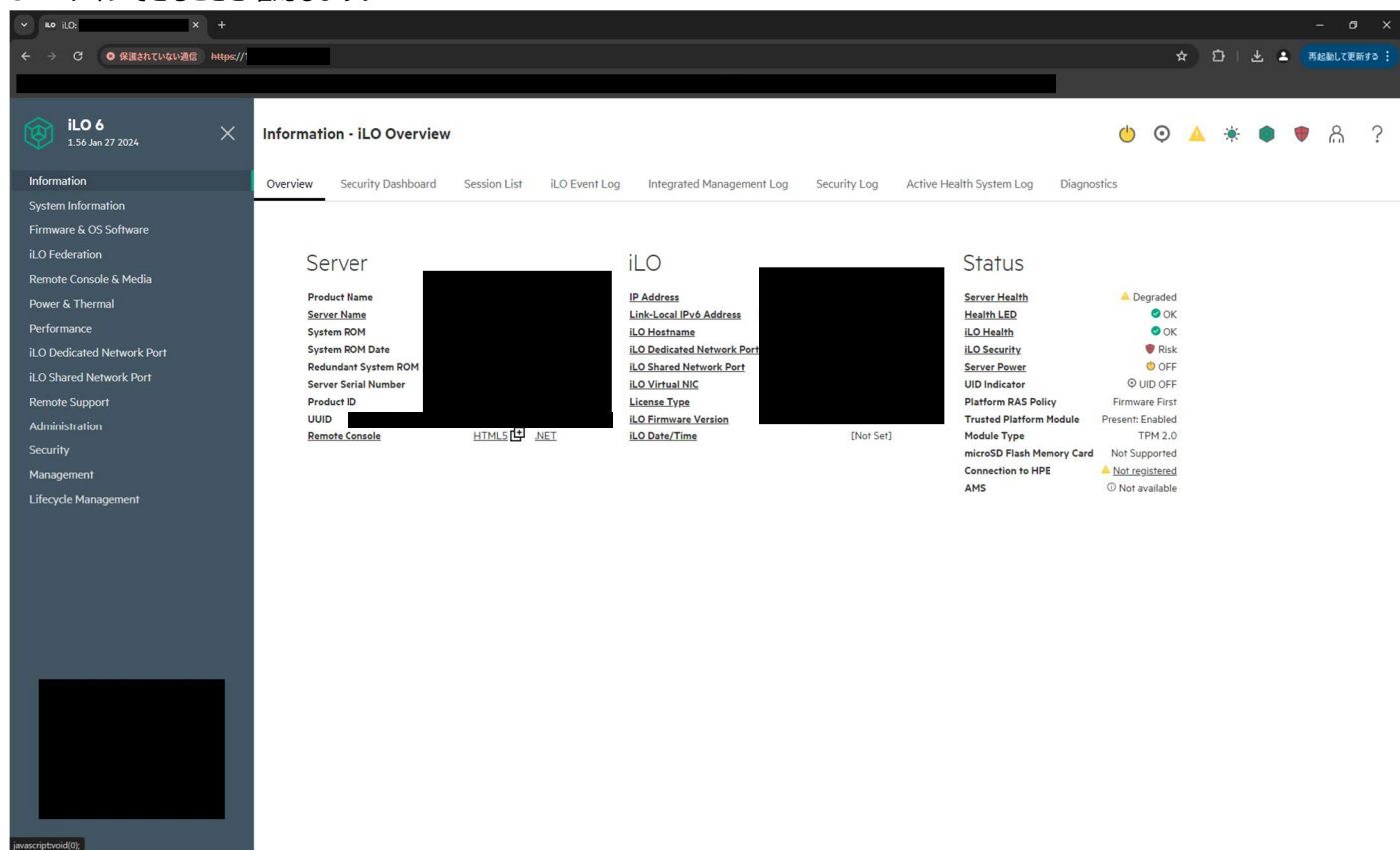
3. [リモートコンソール IP アドレス]にアクセスする をクリックします。



4. 開通通知書記載のリモートコンソールログイン ID、リモートコンソールパスワードを入力しログインします。

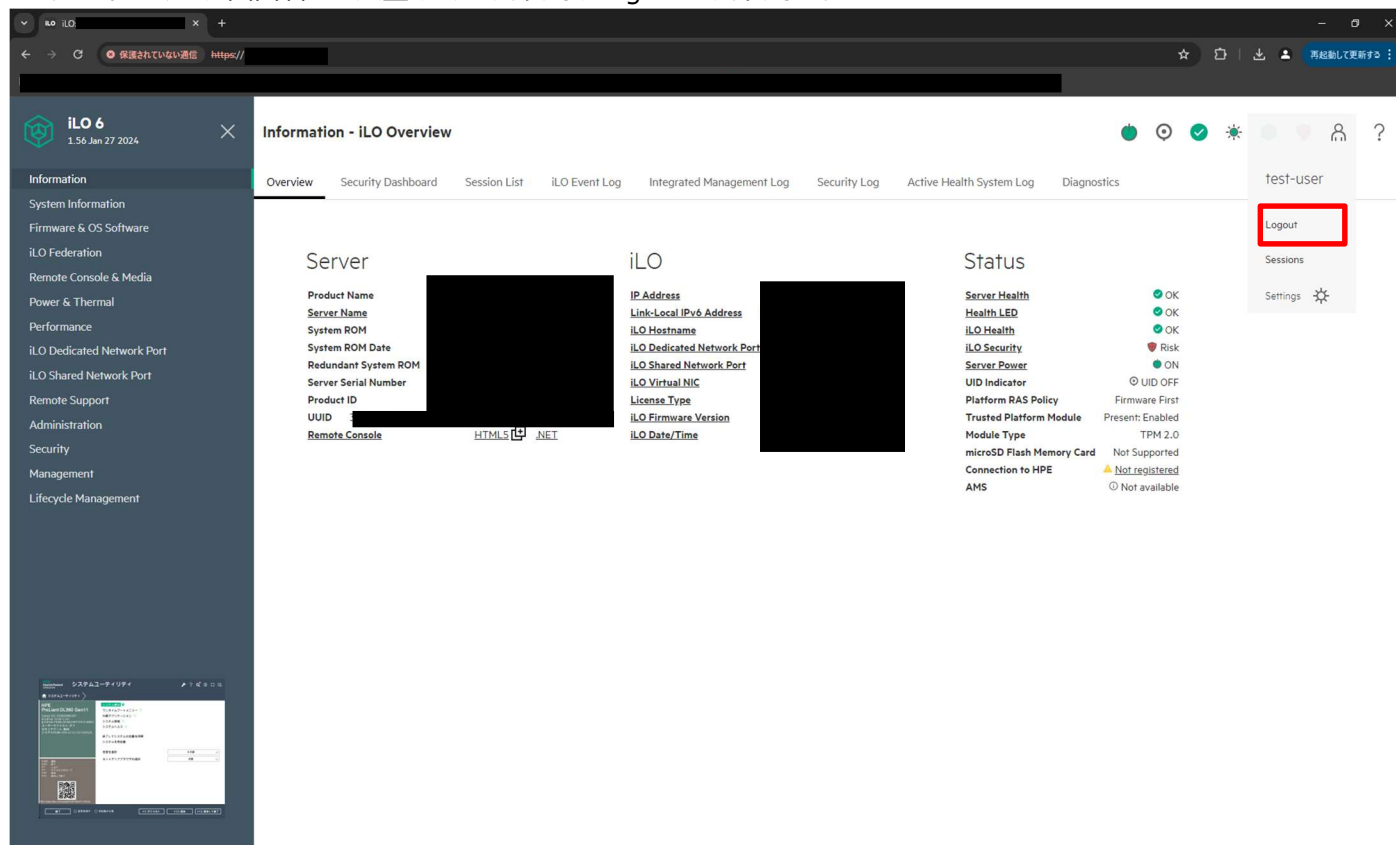


5. ログインできることを確認します。



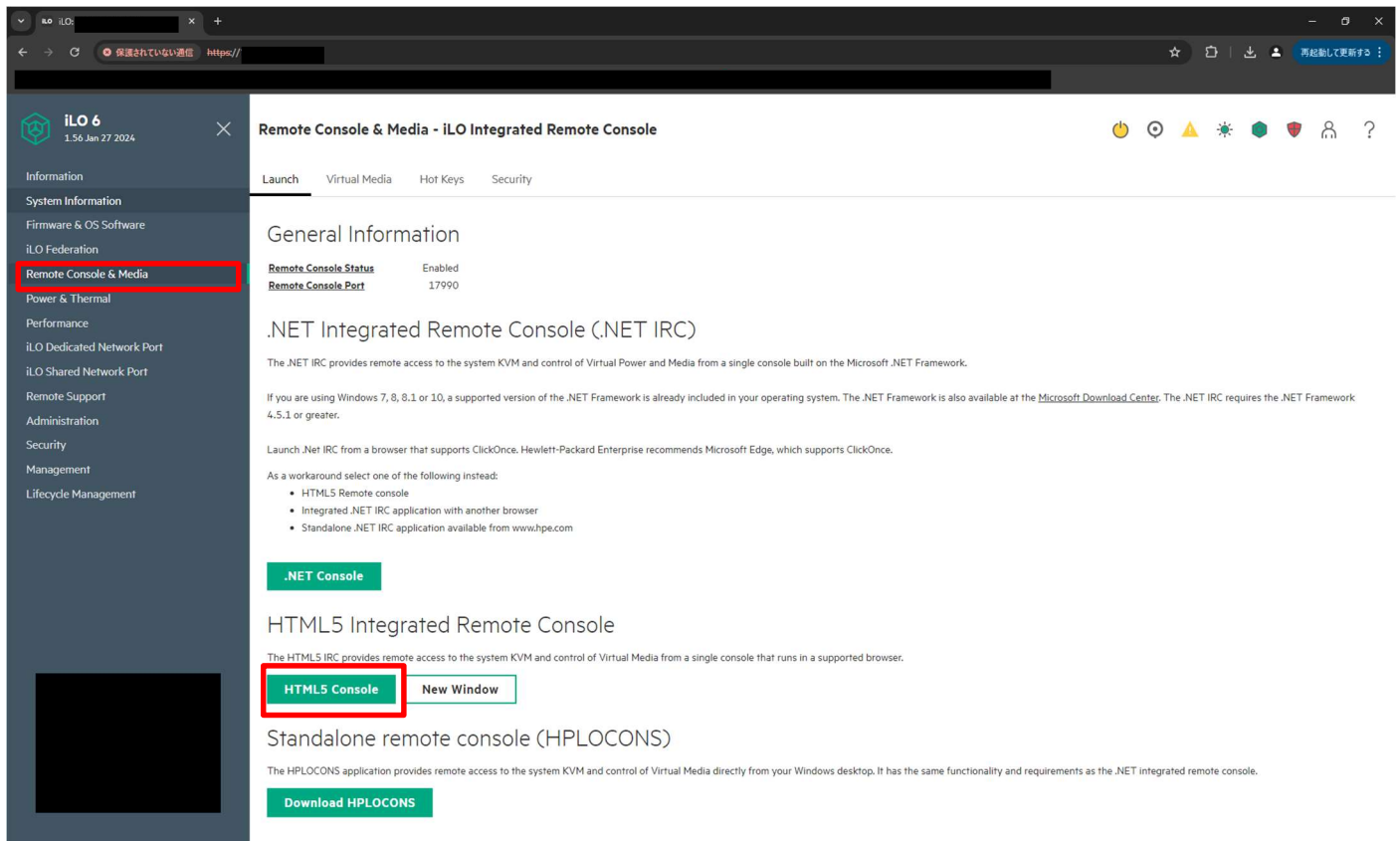
2.2. リモートコンソールのログアウト

1. リモートコンソール画面右上の人型マークをクリックし、Logout をクリックします。



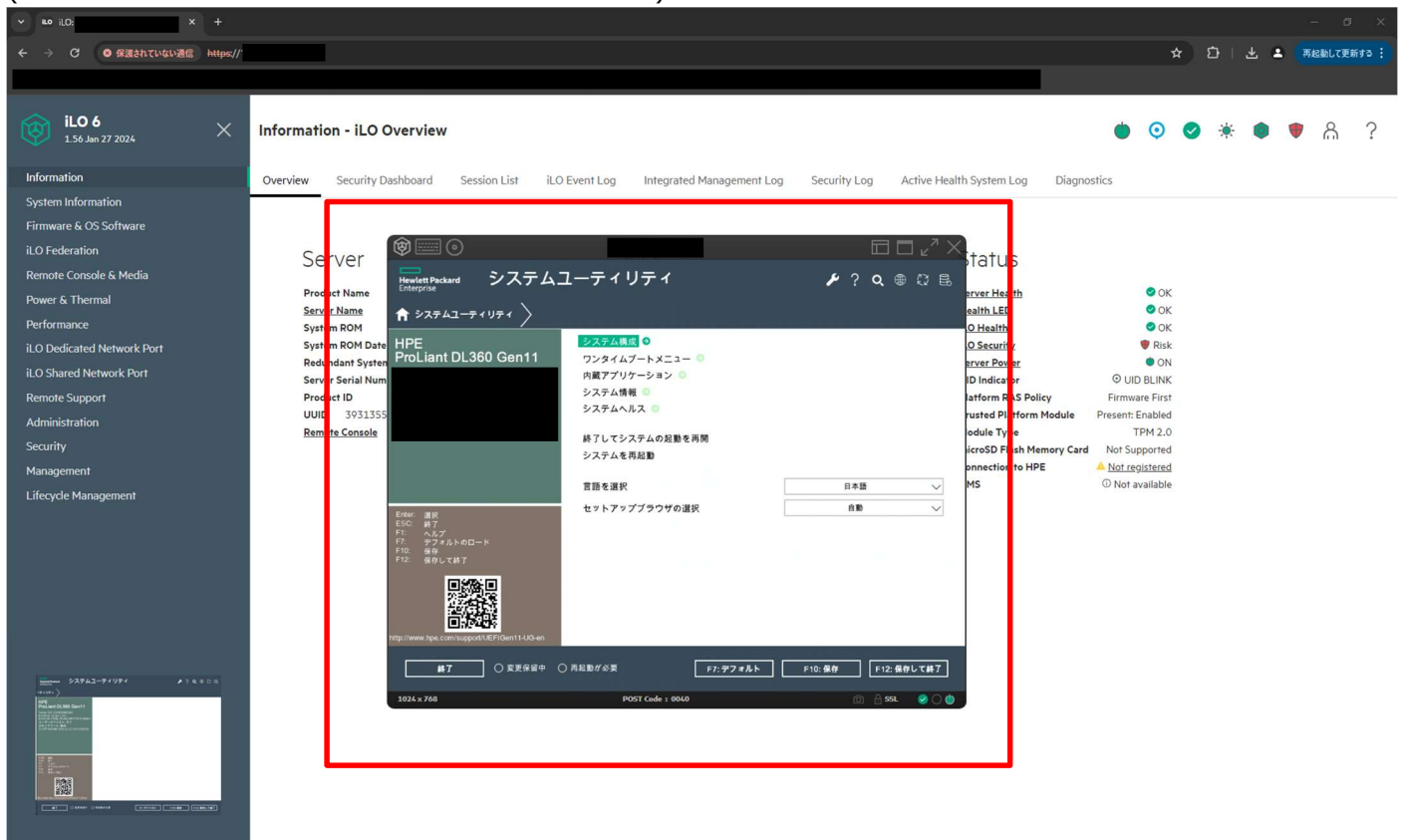
2.3. サーバーへの仮想アクセス

1. リモートコンソール画面左側のタブより、Remote Console&Media をクリックし、HTML5 Console のボタンをクリックします。



2. サーバーへの仮想アクセス画面が表示されることを確認します。

(以下は一例として、サーバーの UEFI 画面を表示しています。)



3. ディスクの設定

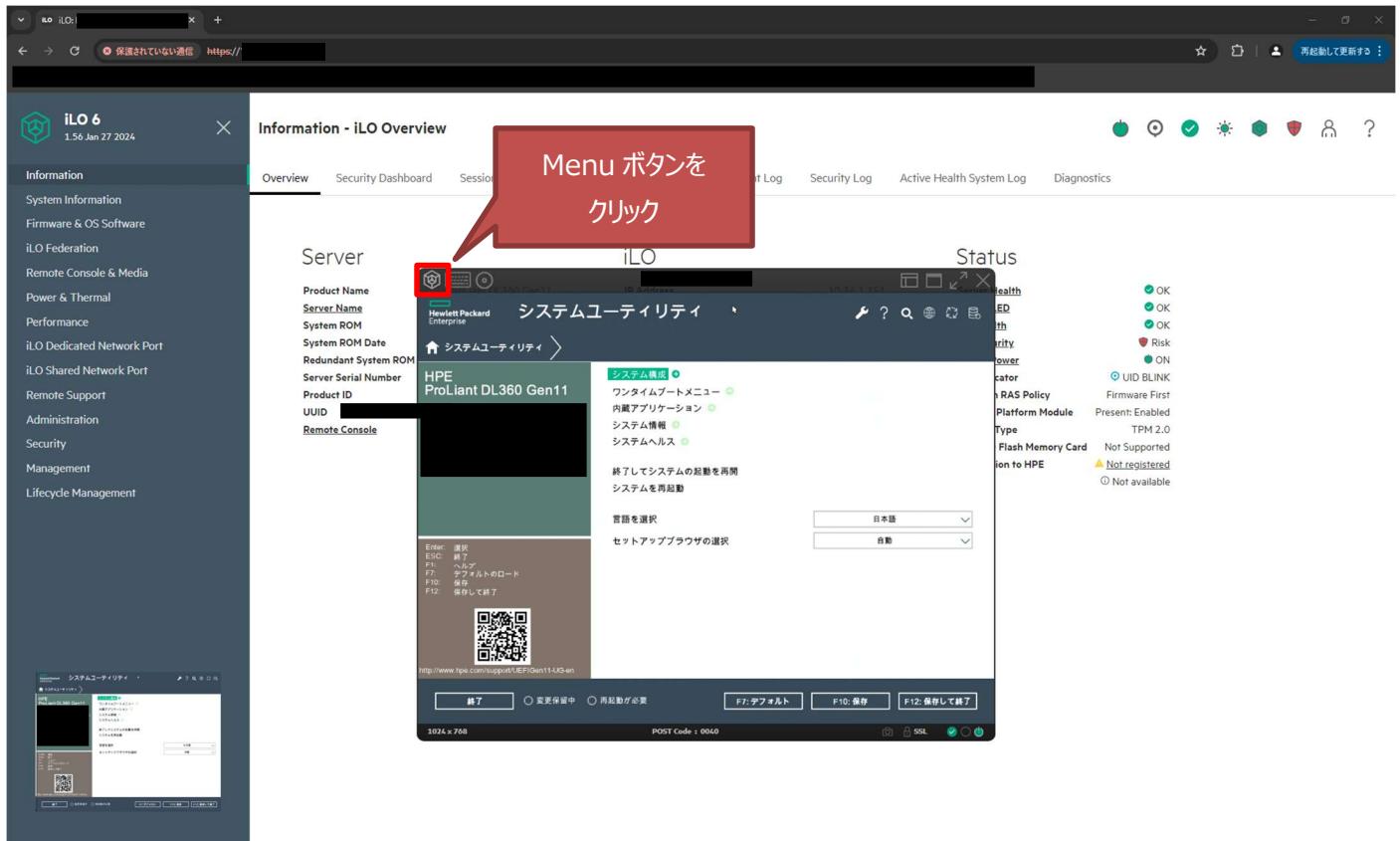
サーバーに OS をインストールする前にディスクの設定を実施する必要があります。

本章では RAID 構成の作成と RAID 構成の削除について説明します。

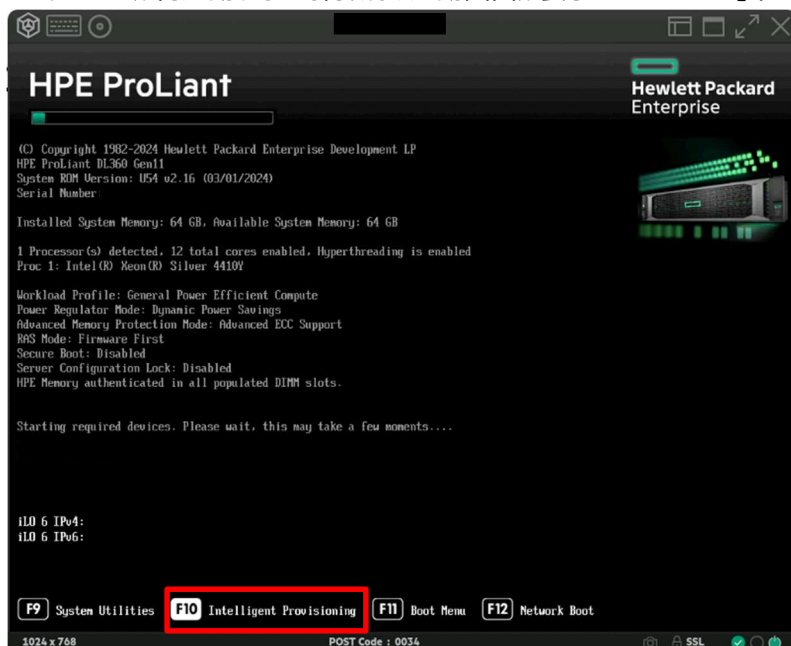
3.1. RAID 構成の作成

1. 仮想アクセス画面左上の Menu ボタンより、Power -> Reset をクリックし、サーバーを再起動させます。

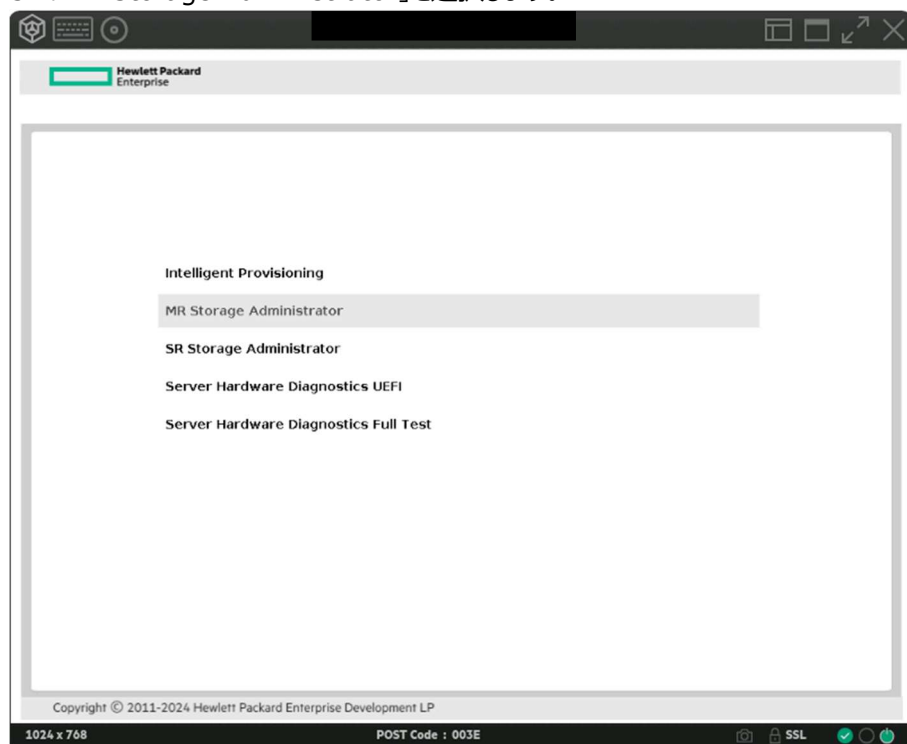
※確認画面が表示され、再起動して良い場合は OK をクリックします。



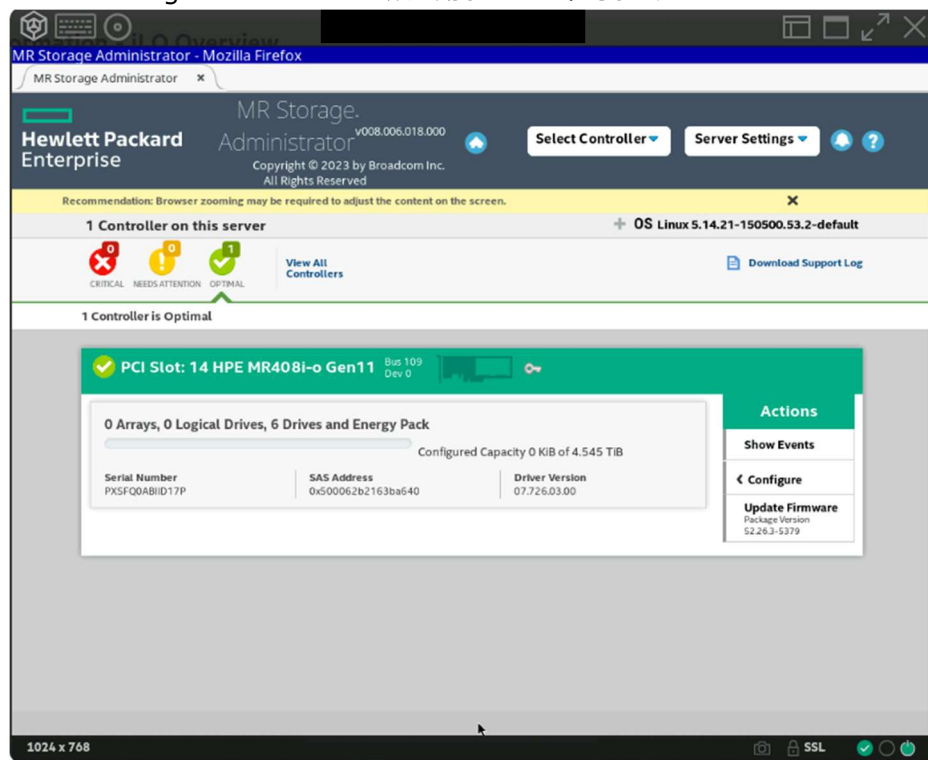
2. サーバーが再起動するまで待機し、起動画面が表示されたら「F10」キーを押します。



3. 「MR Storage Administrator」を選択します。

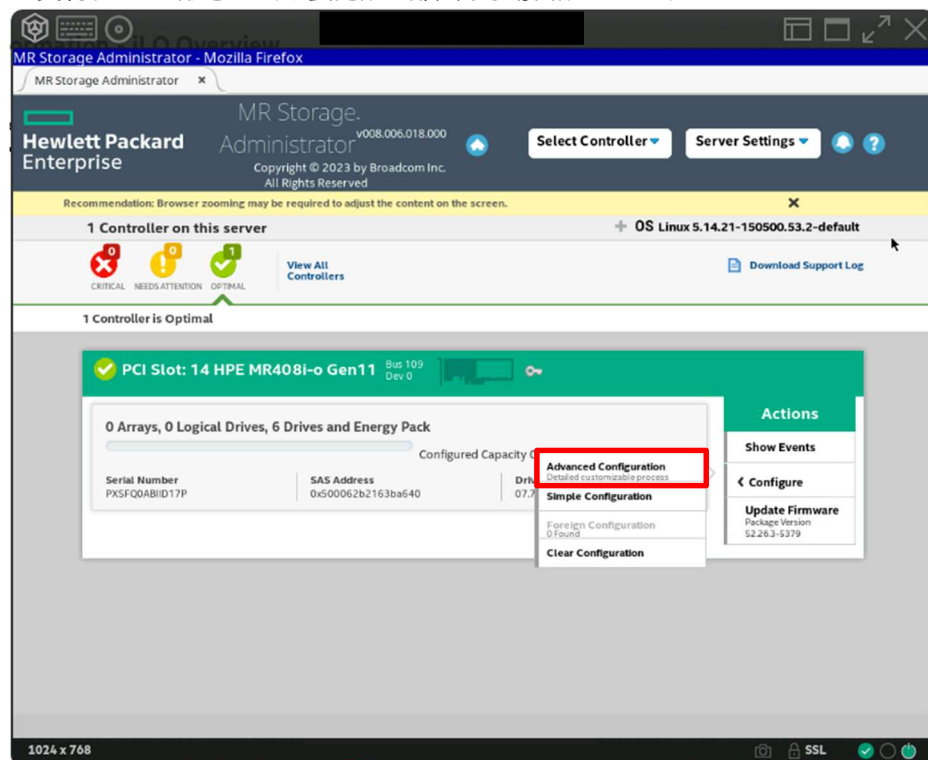


4. MR Storage Administrator が起動したことを確認します。



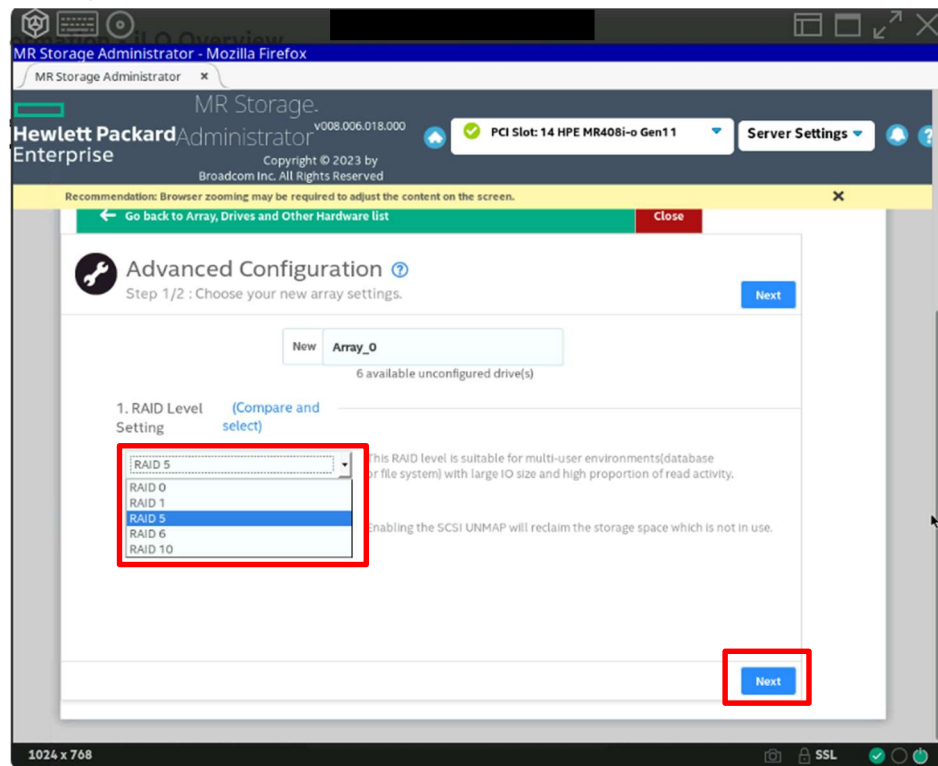
5. 「Configure」→「Advanced Configuration」をクリックします。

※契約サーバー形態により、表記が一部異なる場合がございます。

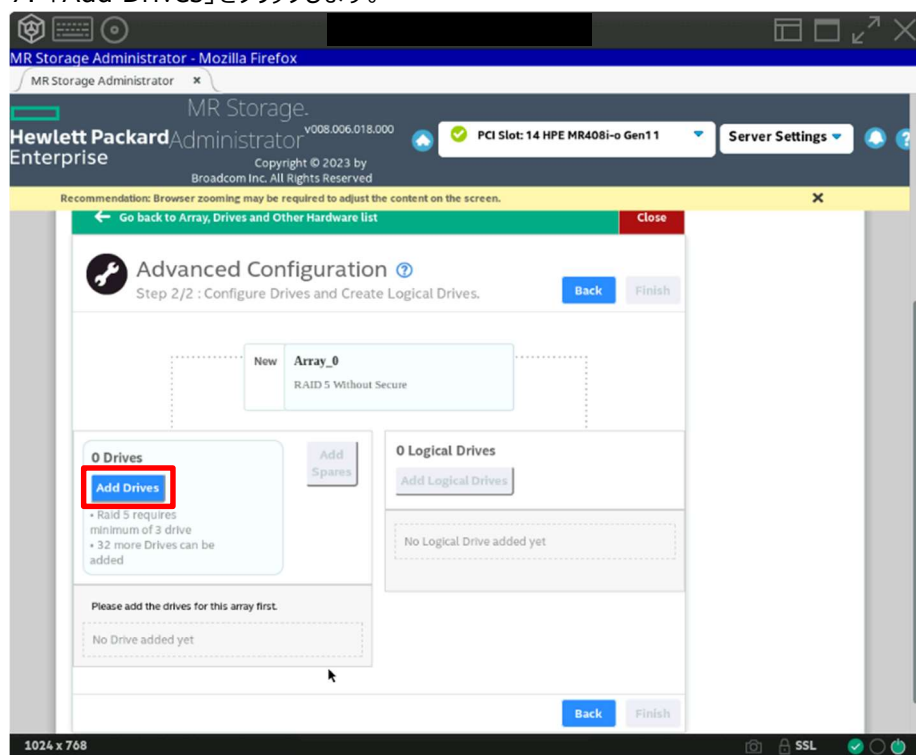


6. 「RAID Level Settings」より好みの RAID 構成を選択し「Next」をクリックします。

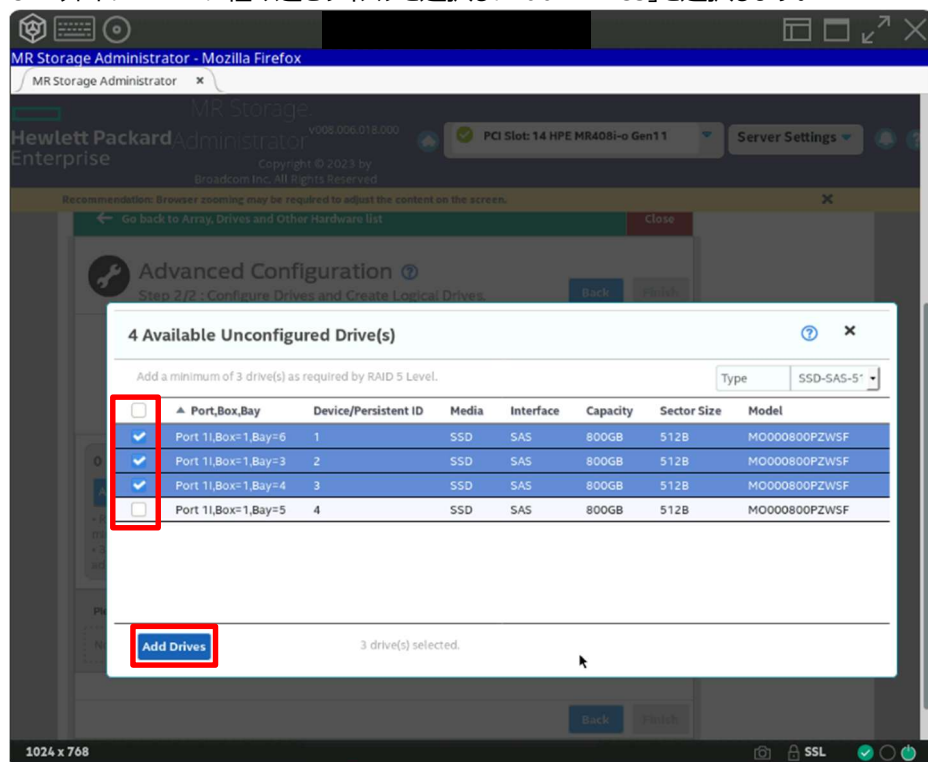
※お客様の申し込み内容により構成可能な RAID は異なります。



7. 「Add Drives」をクリックします。

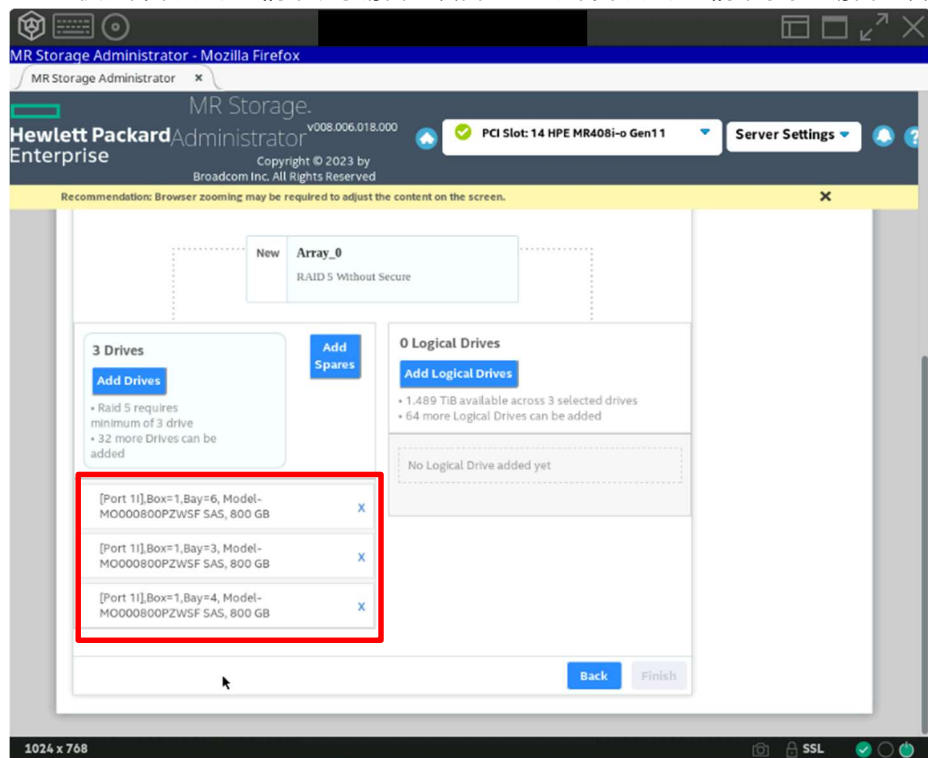


8. 今回の RAID に組み込むディスクを選択し「Add Drives」を選択します。

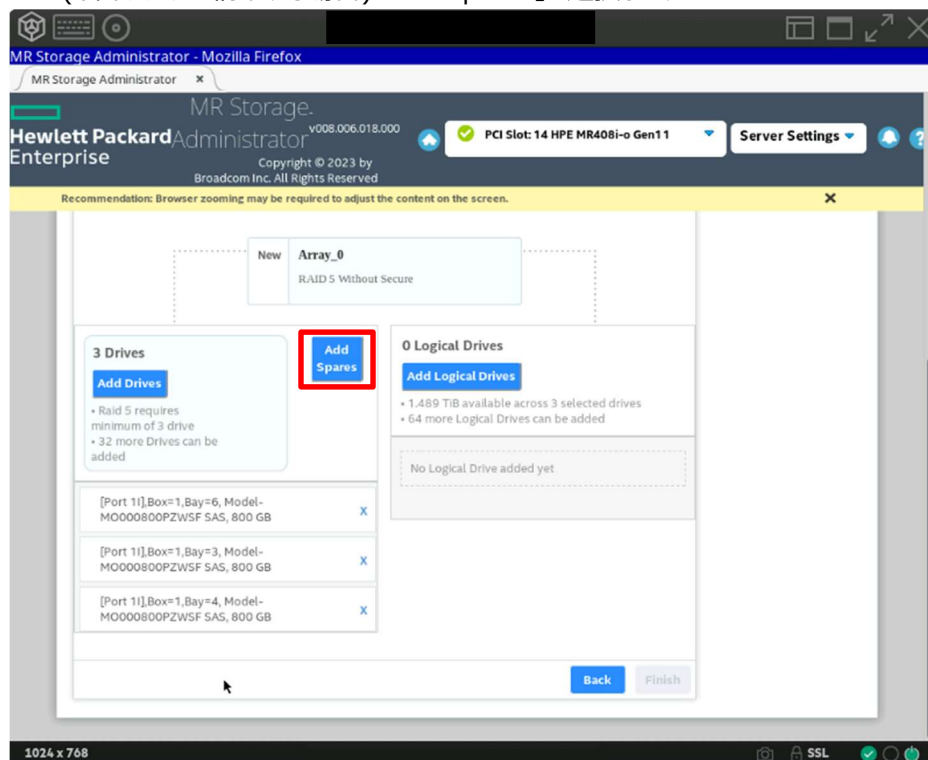


9. 選択したディスクが表示されていることを確認します。

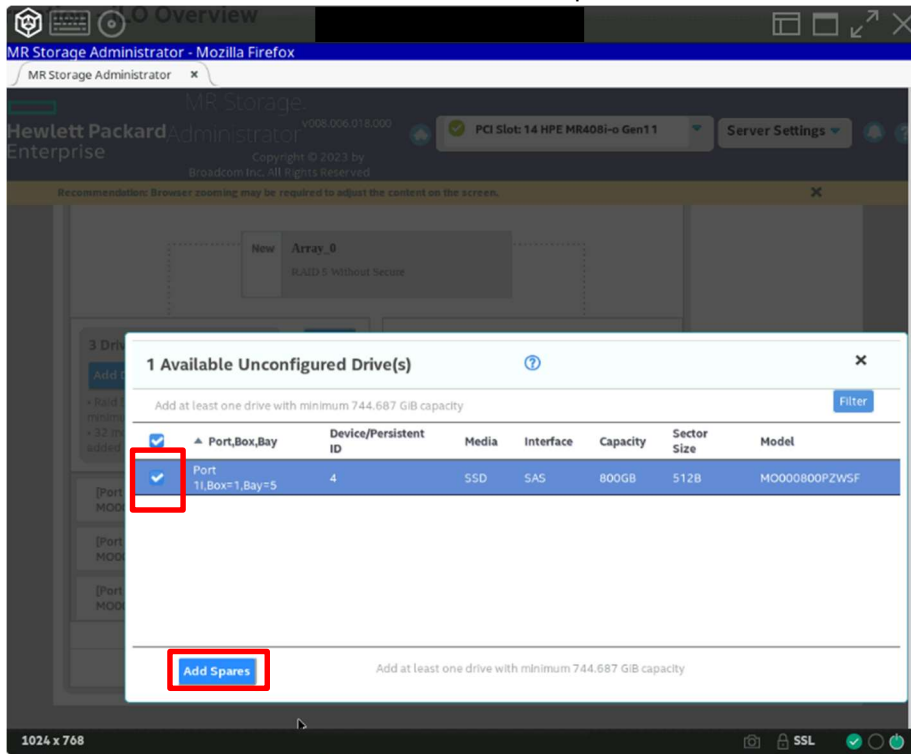
※この後、ホットスペアを構築する場合は項番 10 を、ホットスペアを構築しない場合は項番 13 を参照して下さい。



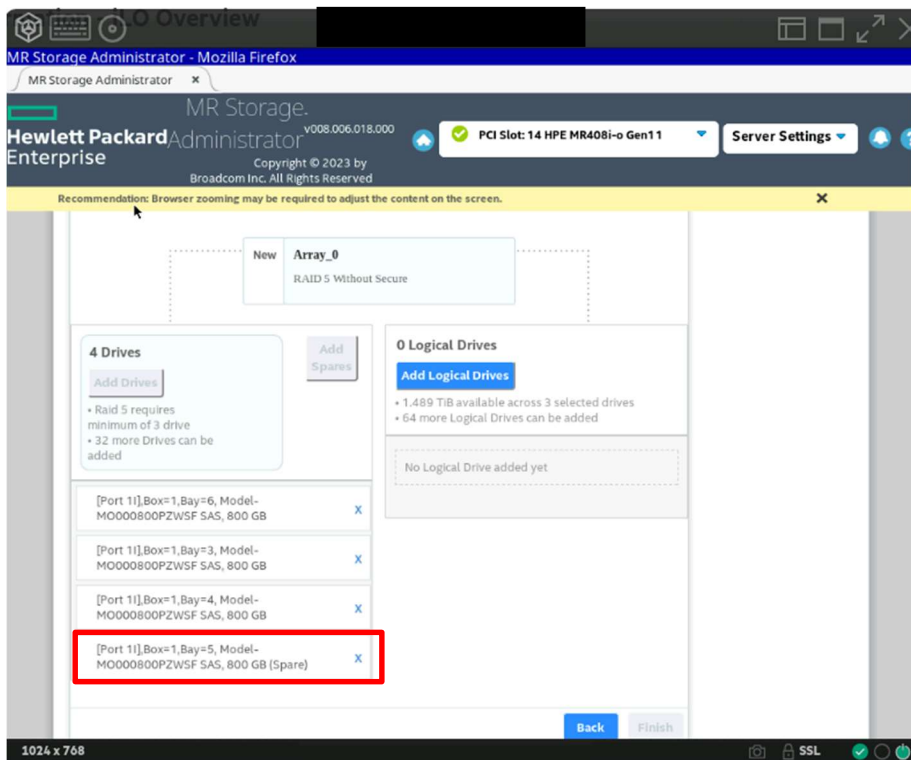
10. (ホットスペアを構築する場合)「Add Spares」を選択します。



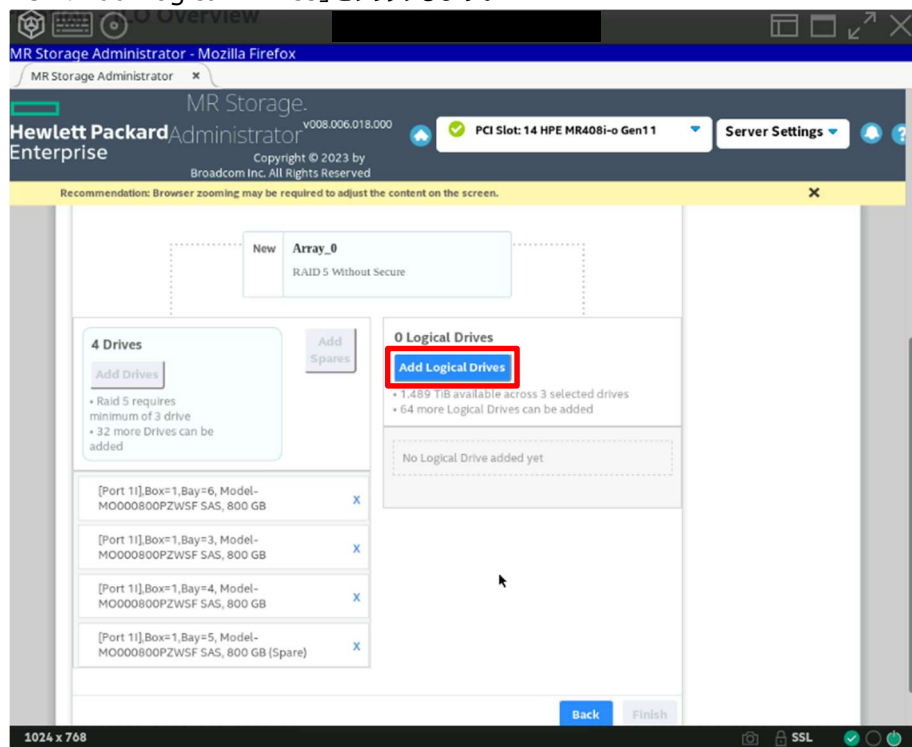
11. ホットスペアに使用するディスクを選択し、「Add Spares」をクリックします。



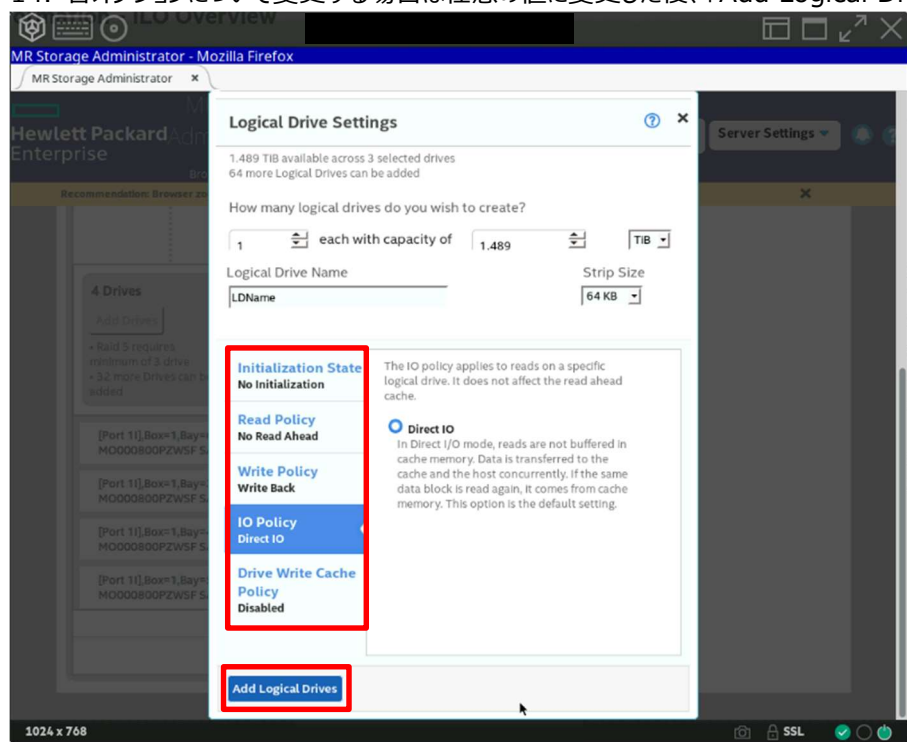
12. ホットスペア用のディスクが表示されていることを確認します。



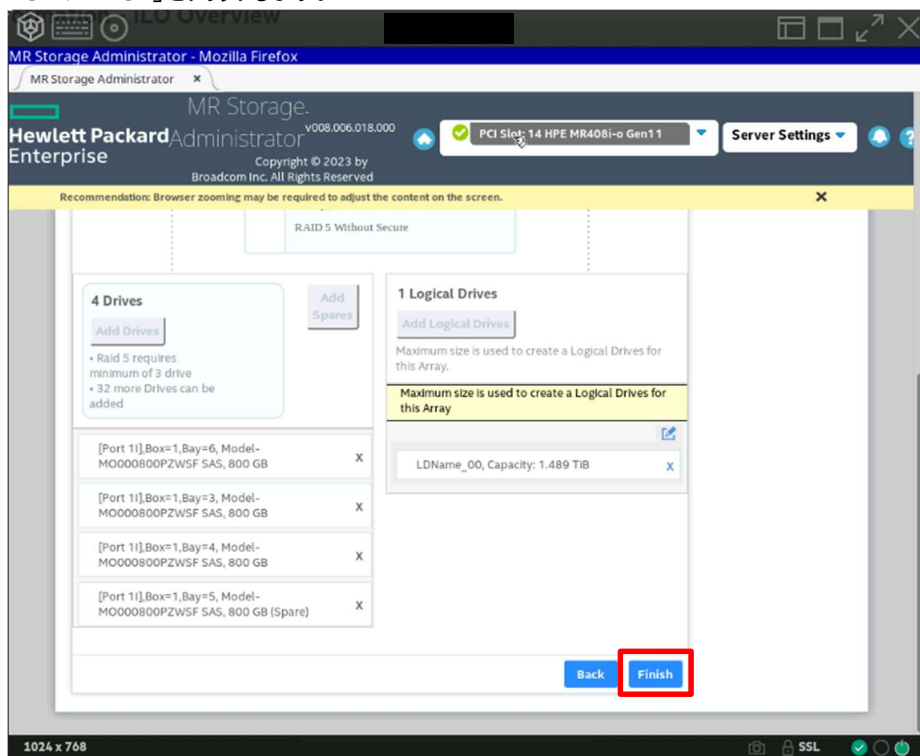
13. 「Add Logical Drives」をクリックします。



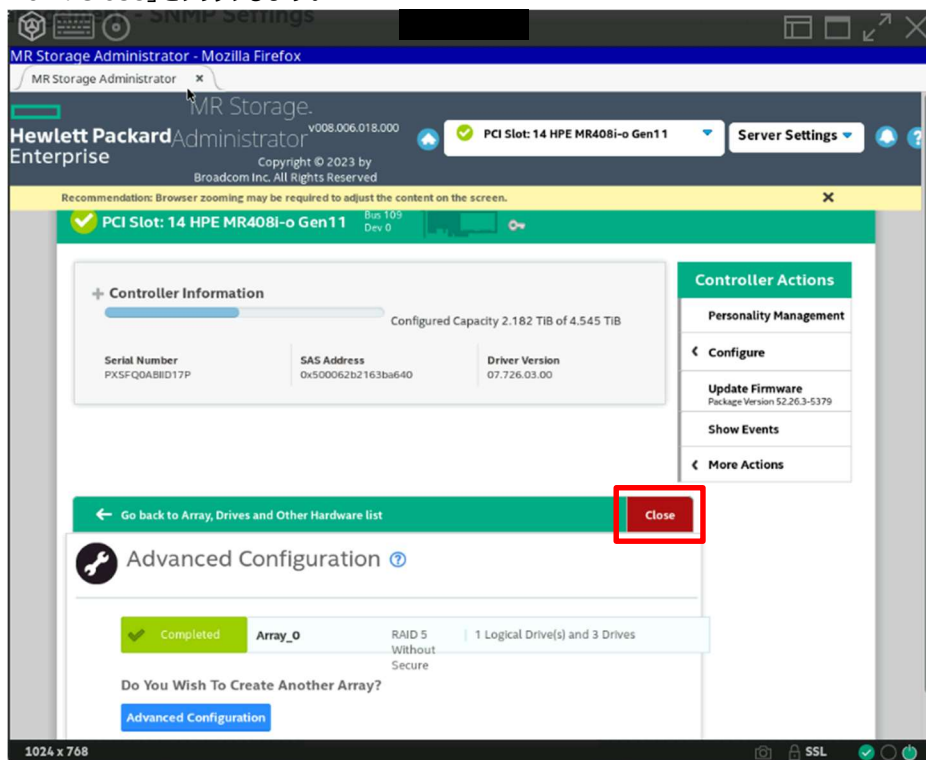
14. 各オプションについて変更する場合は任意の値に変更した後、「Add Logical Drives」をクリックします。



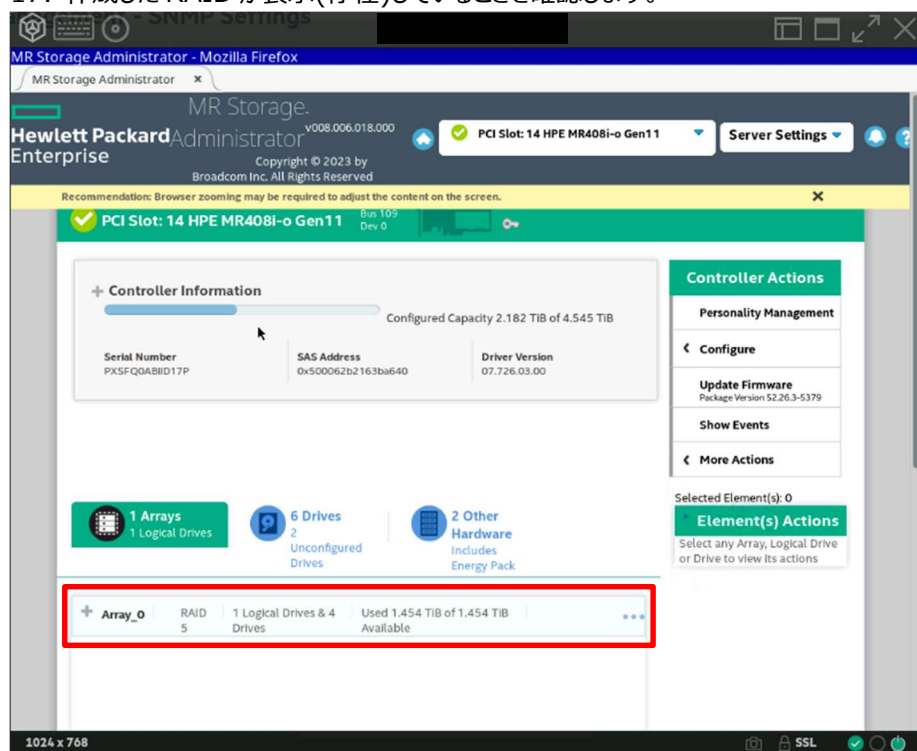
15. 「Finish」をクリックします。



16. 「Close」をクリックします。



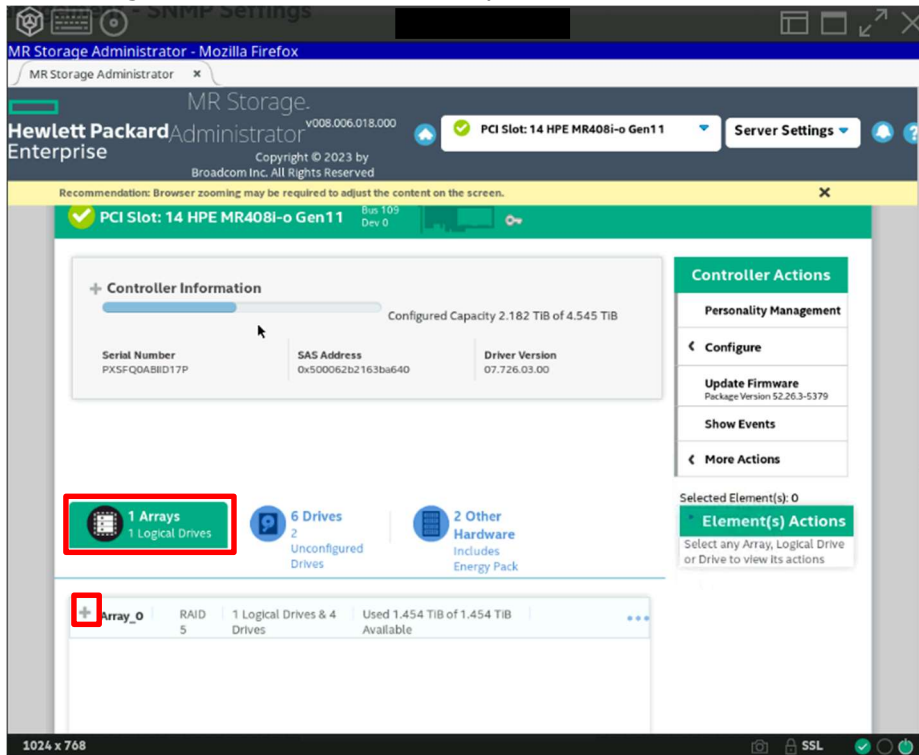
17. 作成した RAID が表示(存在)していることを確認します。



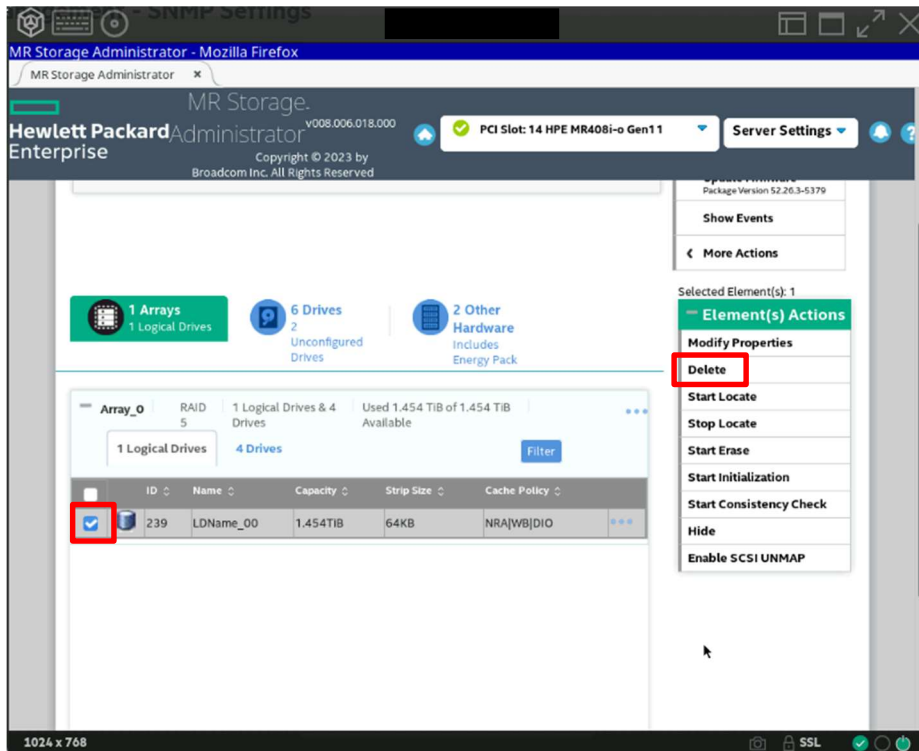
3.2. RAID 構成の削除

1. 作成した RAID を削除したい場合は、本手順に沿って削除することができます。

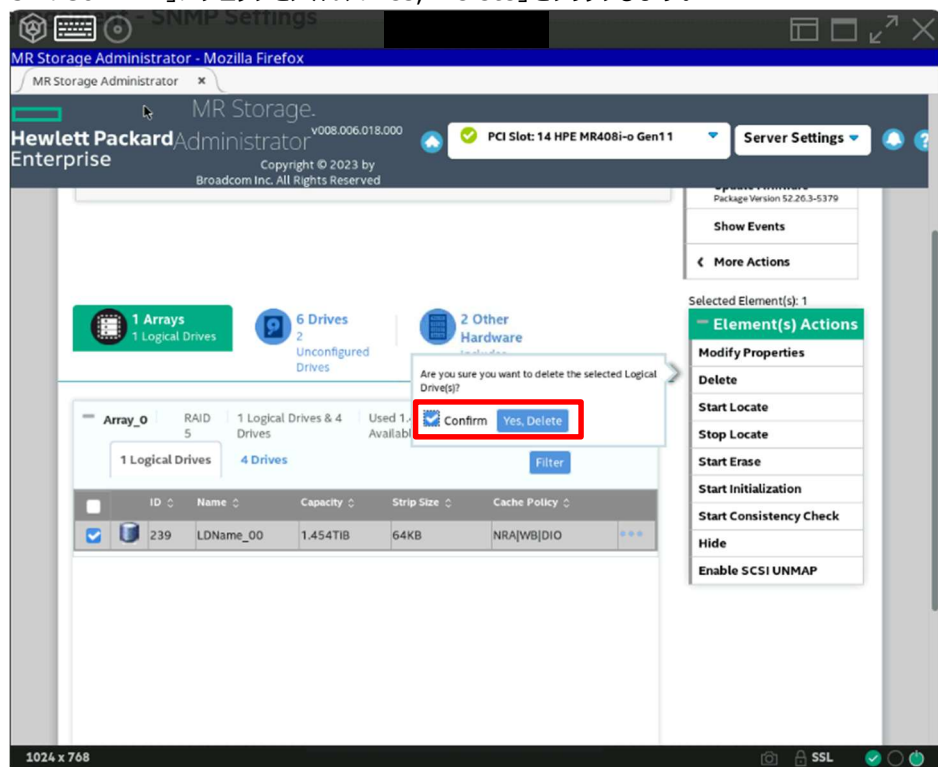
MR Storage Administrator 上から「Arrays」のタブをクリックし、作成した RAID の「+」タブをクリックします。



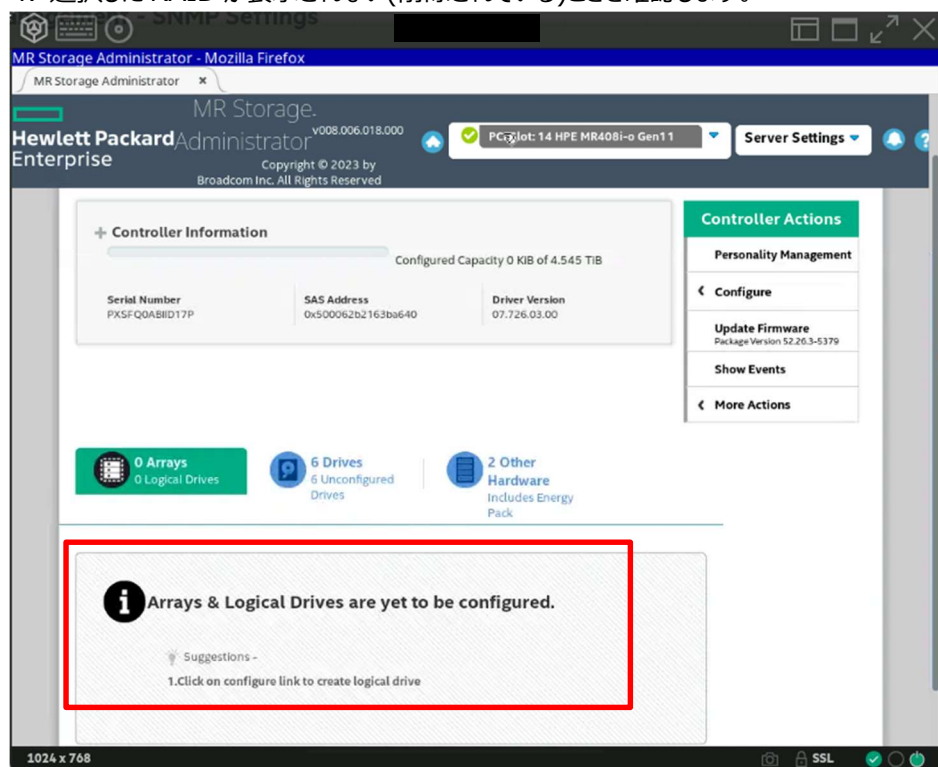
2. 削除対象の RAID にチェックを入れ、「Delete」をクリックします。



3. 「Confirm」にチェックを入れ、「Yes, Delete」をクリックします。



4. 選択した RAID が表示されない(削除されている)ことを確認します。



4. OS インストール(Intelligent Provisioning)

4.1. OS インストール(Intelligent Provisioning)

サーバーの内蔵アプリケーションである Intelligent Provisioning を使って OS をインストールします。

Microsoft Windows Server をインストールする際にご利用ください。

※上手くいかない場合、Linux ディストリビューションをインストールする場合は、5. OS インストール(UEFI)でのインストールを実施下さい。

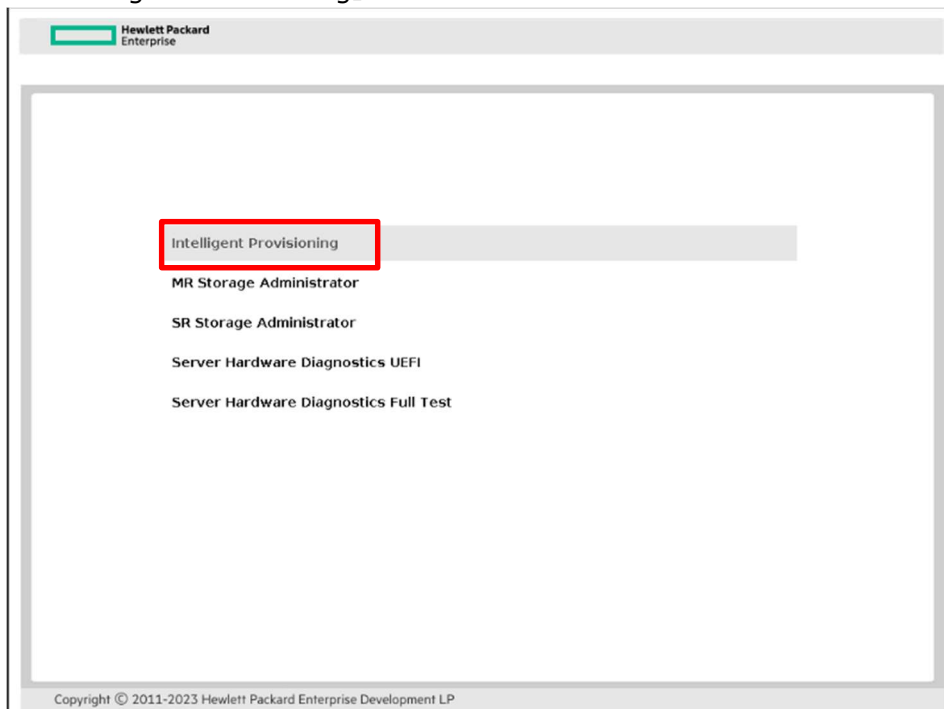
対応 OS (ヒューレット・パカード・エンタープライズ社公式サイト)

https://support.hpe.com/hpesc/public/docDisplay?docId=emr_na-c02735148>

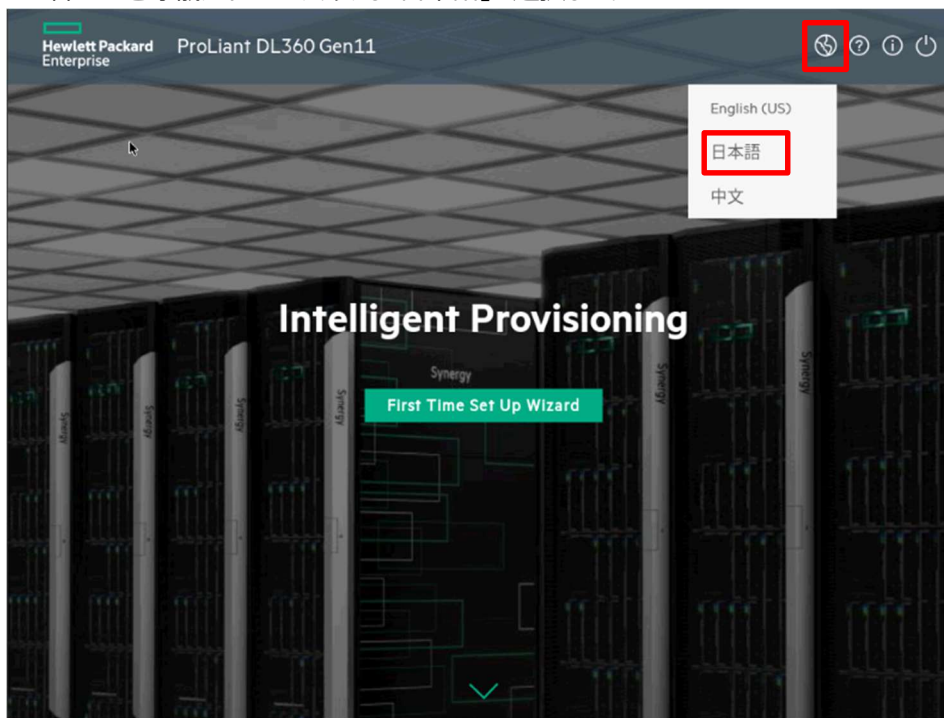
1. サーバーを再起動し、起動画面で「F10」キーを押します。



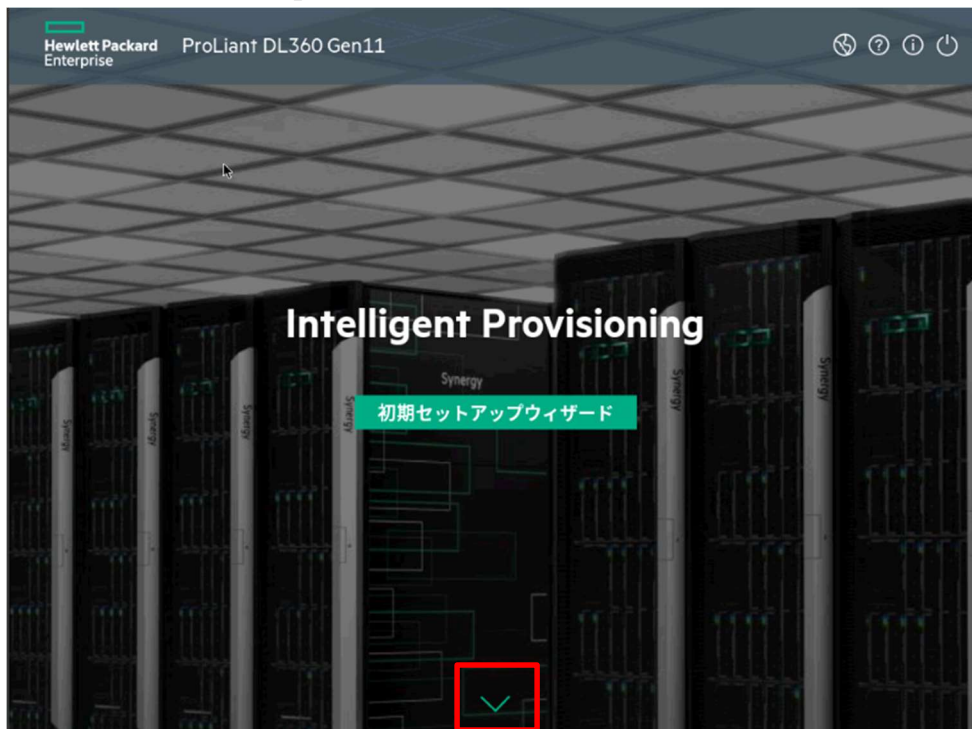
2. 「Intelligent Provisioning」に合わせリターンキーを押します。



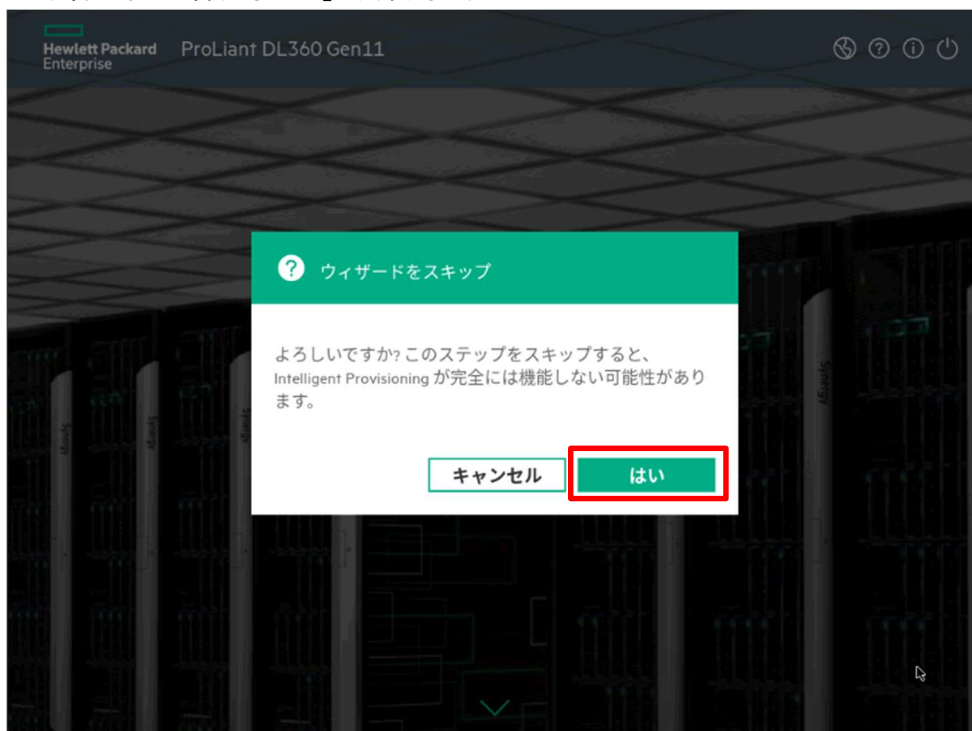
3. 右上の地球儀アイコンをクリックし「日本語」を選択します。



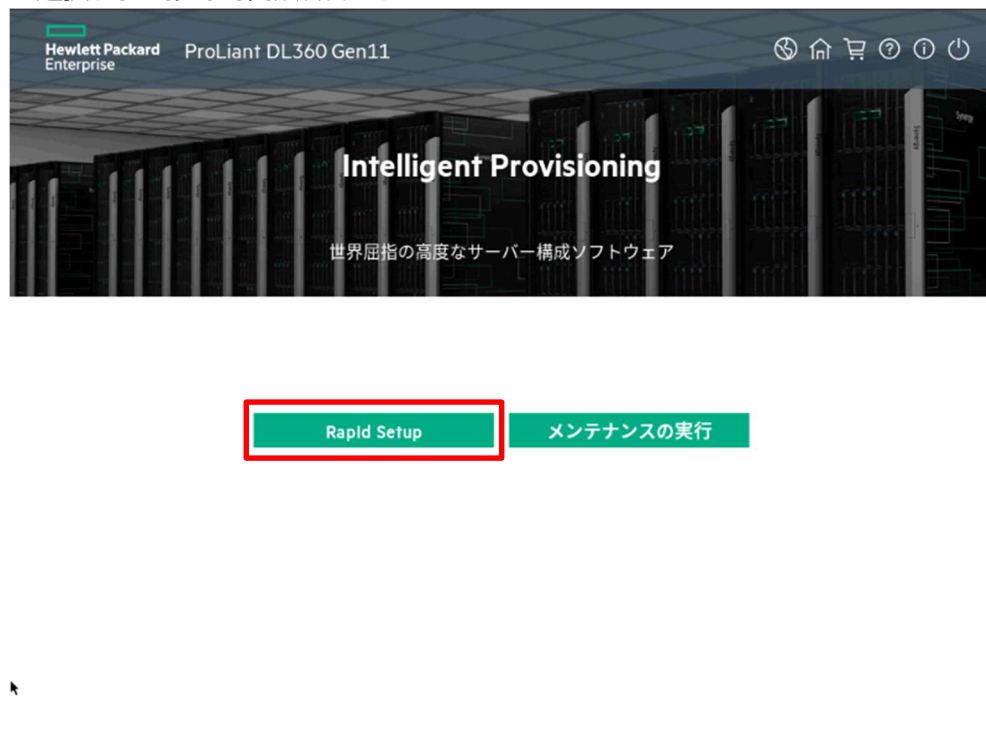
4. 画面下の矢印「スキップ」をクリックします。



5. ウィザードをスキップで「はい」をクリックします。



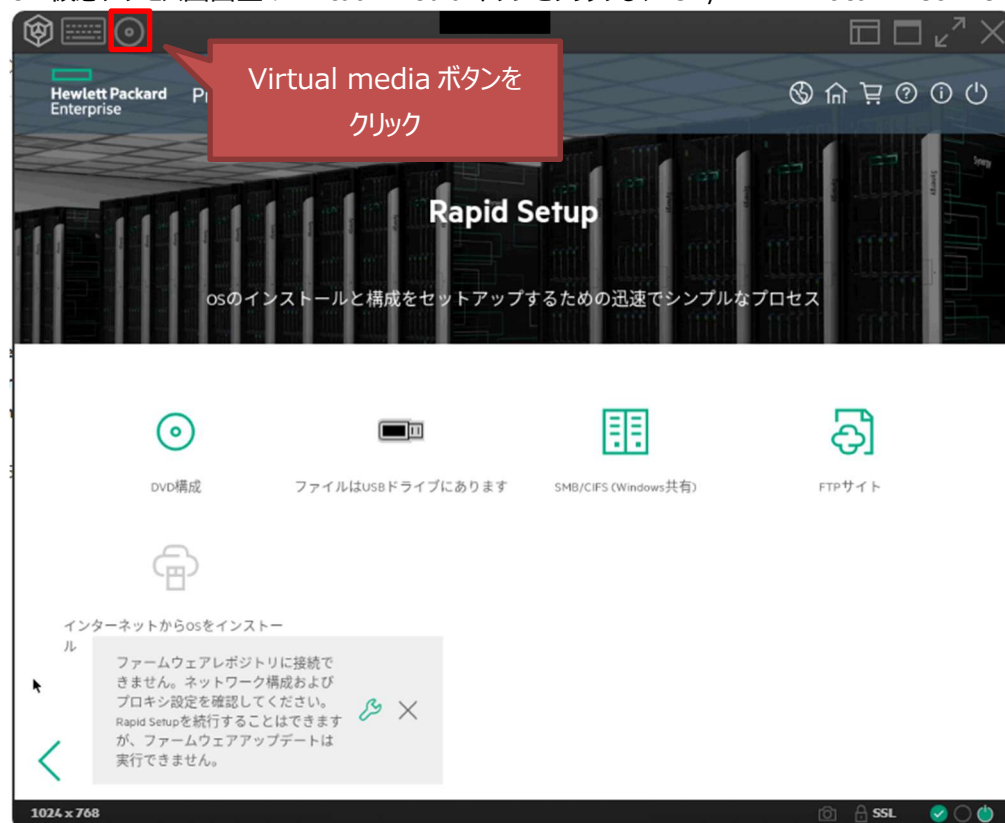
6. 「Rapid Setup」をクリックします。
※選択するまで少し時間がかかります。



7. web プロキシ構成は「スキップ」をクリックします。



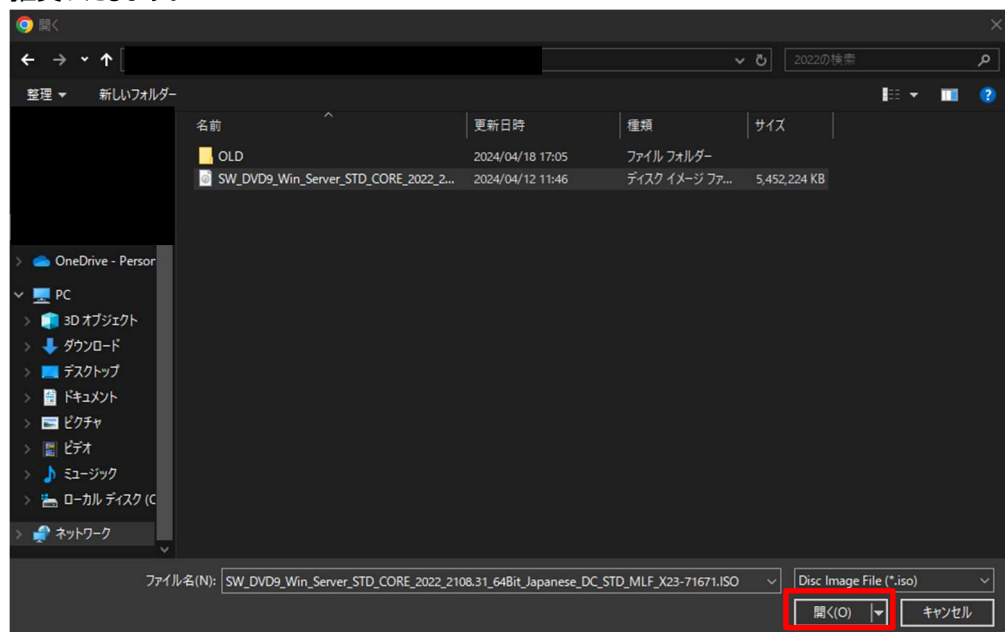
8. 仮想アクセス画面上的の Virtual media ボタンをクリックし、CD/DVD->Local *.iso file をクリックします。



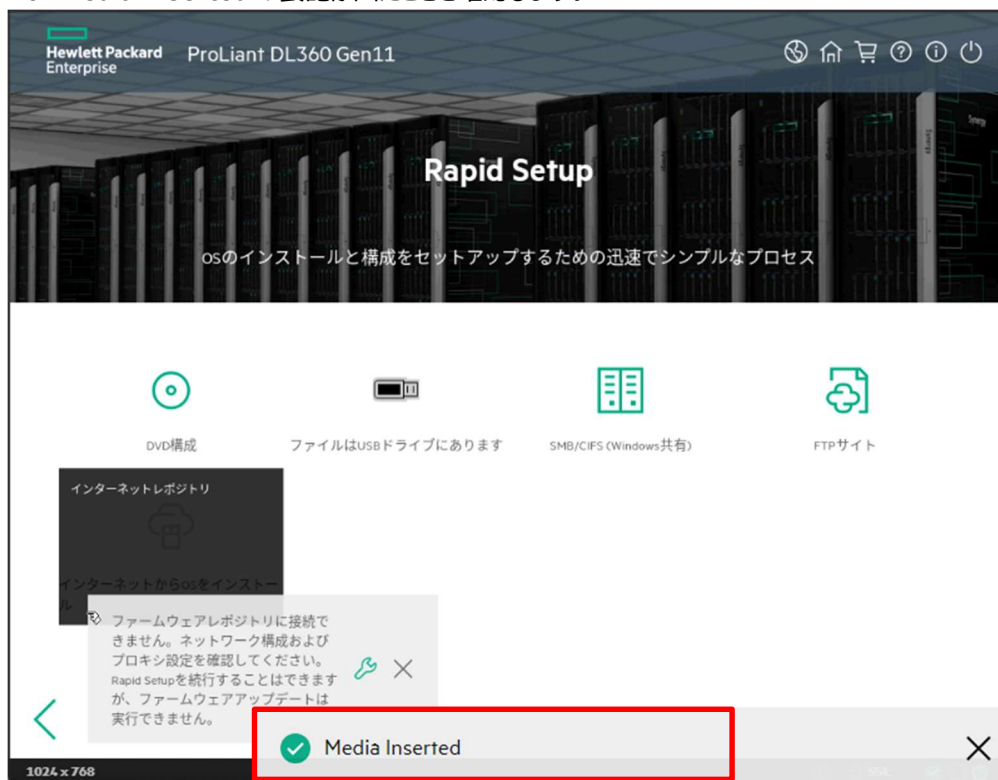
9. インストールする OS の ISO image を指定します。

※ISO image のアップロード時の通信品質により OS インストールが失敗することがあります。

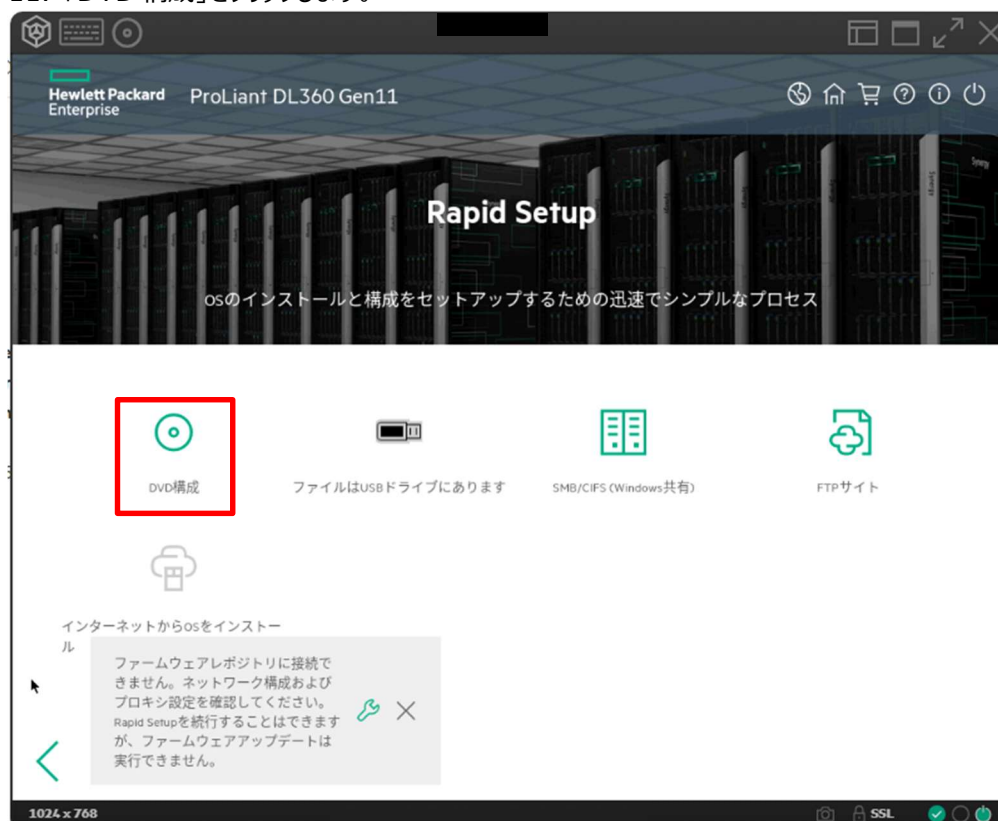
そのため、インストールメディア（ISO image 等）は可能な限り、サーバーと伝送経路上に近い端末に配置して作業されることを推奨いたします。



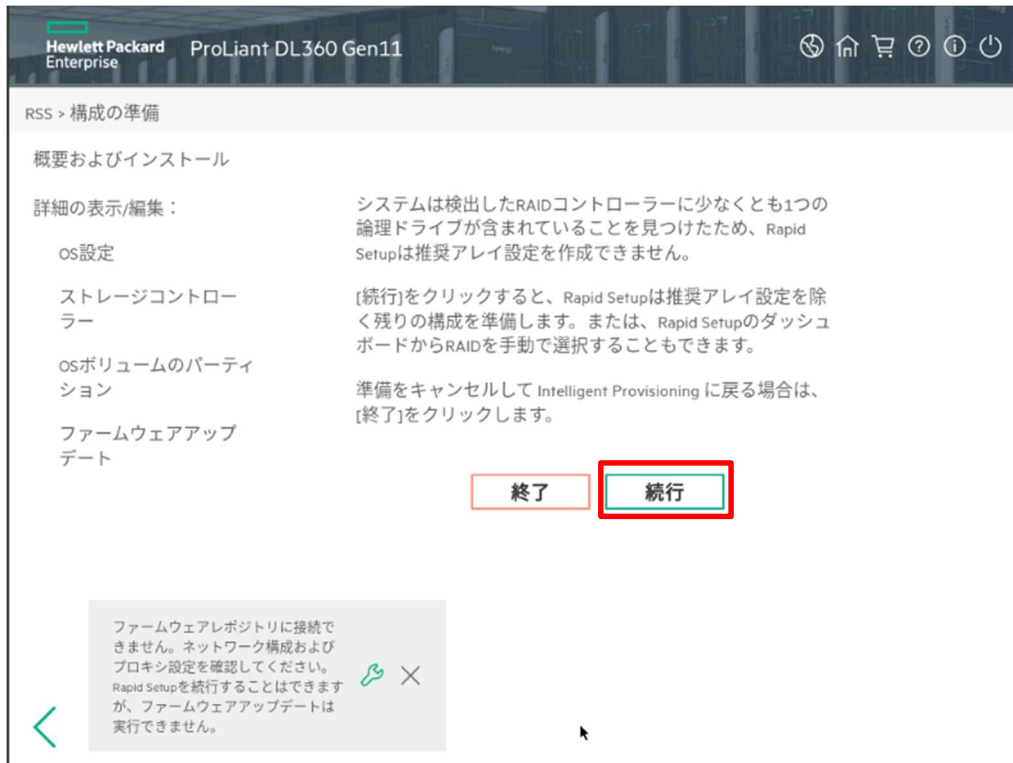
10. Media inserted の表記が出たことを確認します。



11. 「DVD 構成」をクリックします。



12. 推奨アレイ設定は「続行」をクリックします。



13. ストレージコントローラー欄で本手順書第 3 章「ディスクの設定」にて作成した RAID が選択されていることを確認します。



14. 下にスクロールし、OS ボリュームのパーティション欄の鉛筆マークをクリックします。



15. OS のパーティションを変更しない場合は、「推奨パーティションの使用」にチェックが入っていることを確認し項番 17 にお進みください。
OS のパーティションを変更する場合は、推奨パーティションのチェックを外し、項番 16 にお進みください。



16. (OS のパーティションを変更する場合)下にスクロールし、各ドライブの PERSENTAGE の値を任意の値に書き換えます。
(以下は一例として、2 つのドライブを作成し、各 50%を割り振った場合の画面を表示しています。)

RSS > OSボリュームのパーティション

概要およびインストール 概要およびインストールに戻る

詳細の表示/編集:

OS設定

ストレージコントローラー

OSボリュームのパーティション

ファームウェアアップデート

パーティション	サイズ (MB)	ファイルシステム	PERCENTAGE
Recovery	490	NTFS	--
EFI system partition	100	FAT32	--
Microsoft reserved partition	16	NTFS	--
Basic data partition	380977	NTFS	50
Basic data partition	380977	NTFS	50

ファームウェアレポジトリに接続できません。ネットワーク構成およびプロキシ設定を確認してください。
Rapid Setupを続行することはできませんが、ファームウェアアップデートは実行できません。

17. 「概要およびインストールに戻る」をクリックします。

RSS > OSボリュームのパーティション

概要およびインストール 概要およびインストールに戻る

詳細の表示/編集:

OS設定

ストレージコントローラー

OSボリュームのパーティション

ファームウェアアップデート

☐ 推奨パーティションの使用

次のドライブを1つ選択してosドライブとして構成します

MR Volume 239 799 GB

マウントポイント	サイズ (MB)	ファイルシステム	パーティションラベル	PERCENTAGE
	3809			
	3809			

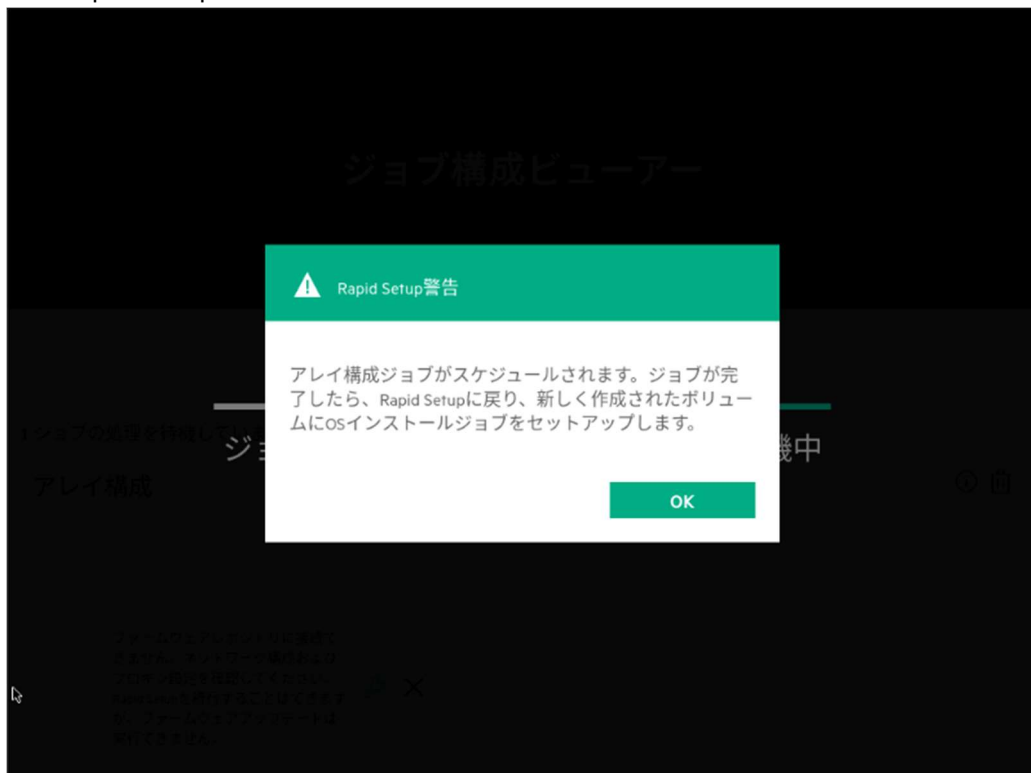
パーティションの残り割り当てサイズなし

ファームウェアレポジトリに接続できません。ネットワーク構成およびプロキシ設定を確認してください。
Rapid Setupを続行することはできませんが、ファームウェアアップデートは実行できません。

18. 内容に相違が無ければ、「構成の許可」をクリックします。



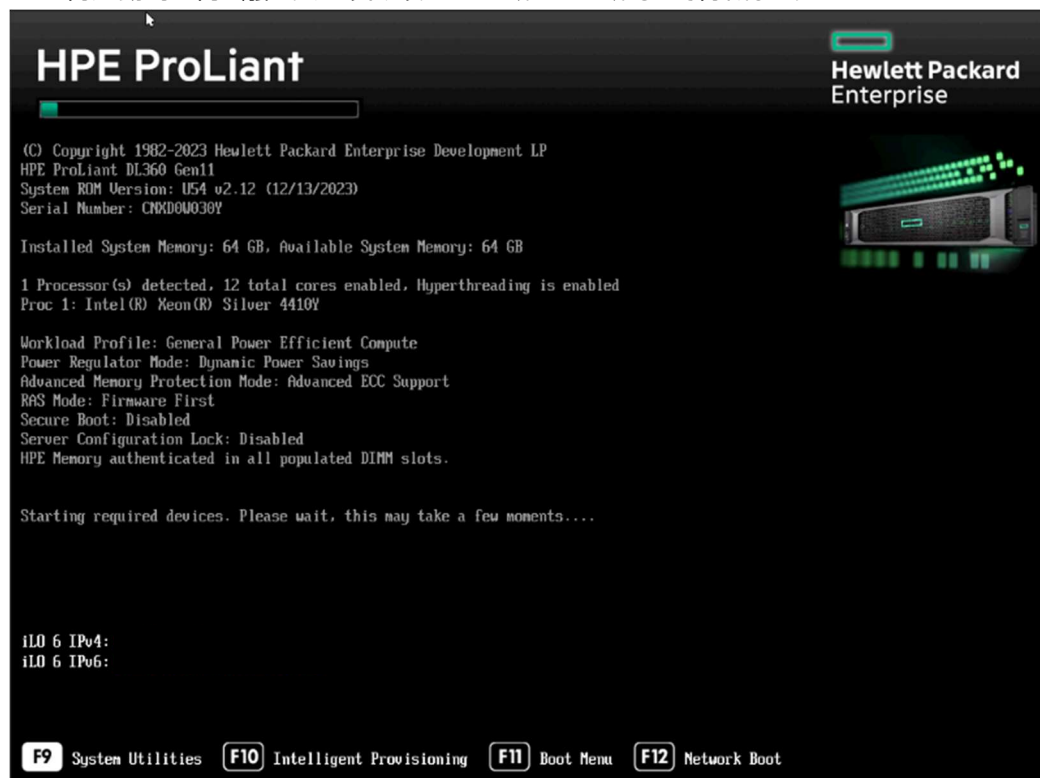
19. Rapid Setup の警告がでます。「ok」をクリックします。



20. 「ジョブステータス」が 100%になると再起動します。



21. 再起動時は何も触らず、セットアップメニューが立ち上がるまで待機します。



22. 以降は OS のセットアップメニューに従って設定を実施して下さい。

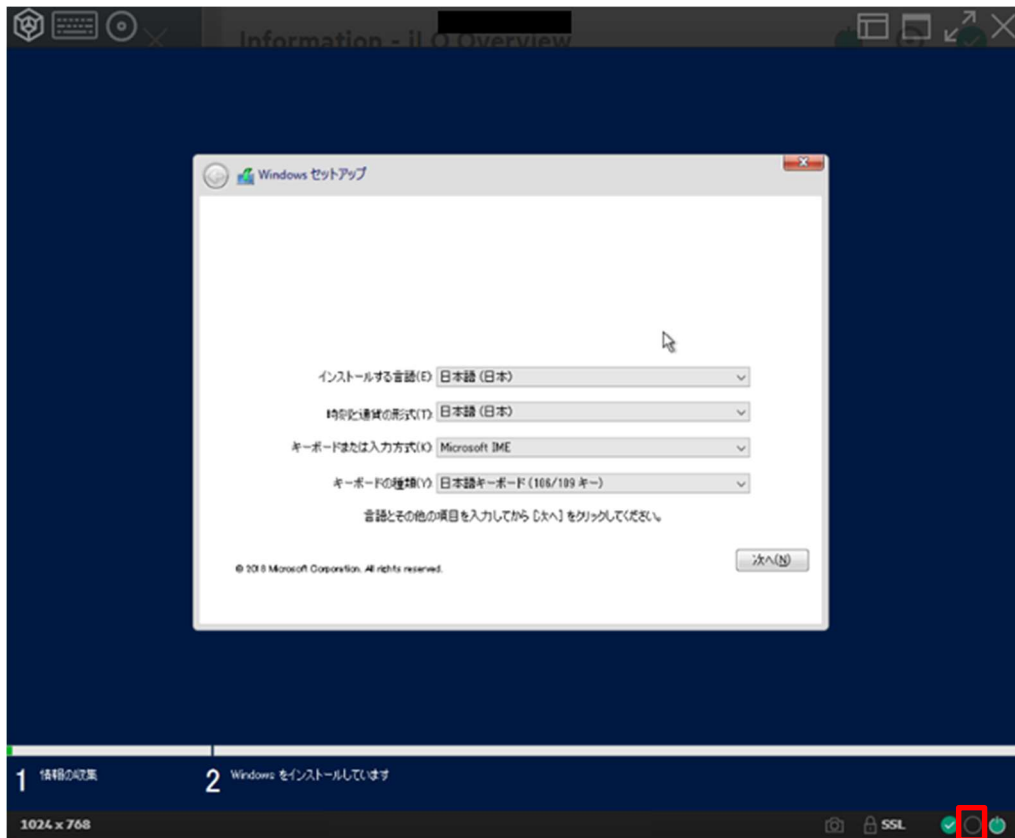
※仮想アクセス画面を閉じると ISO ファイルのマウントも外れてしまうため、OS インストール作業中は仮想アクセス画面を閉じないようにして下さい。

※インストールが進んでいる間は、仮想アクセス画面右下のアクセスインジケータが緑点滅します。

もしインジケータが消灯し、仮想アクセス画面上で OS インストールの進捗が見られなければ OS インストールが失敗している可能性があるため、お手数ですが再度この項目の最初(4. OS インストール(Intelligent Provisioning))からやり直して下さい。

警告：

OS 側で Trusted Platform Module(TPM)を使用してディスク暗号化が実施されている場合は故障交換後にリカバリーキーの入力が必要な場合があります。お客様側にて OS 内にてリカバリーキーの取得と管理をお願いします。リカバリーキーが正しく保管・管理されず、サーバー内データが暗号化解除できずに消失する場合はお客さま責任となります。



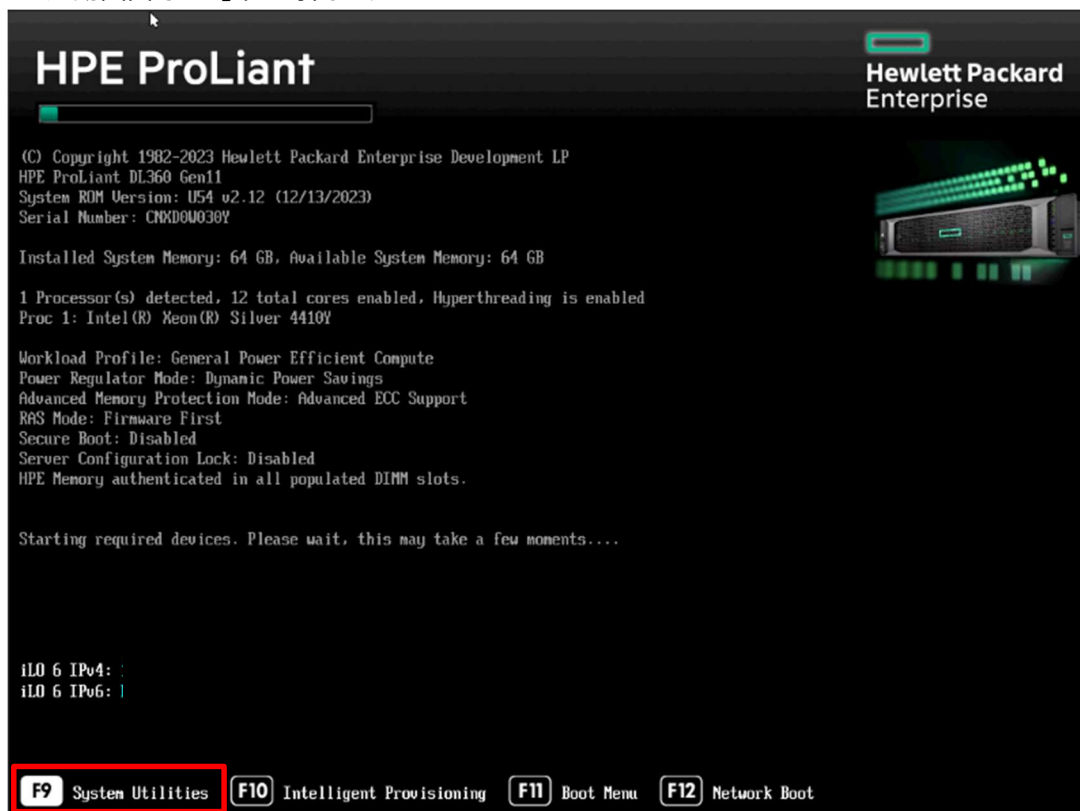
アクセスインジケータ

5. OS インストール (UEFI)

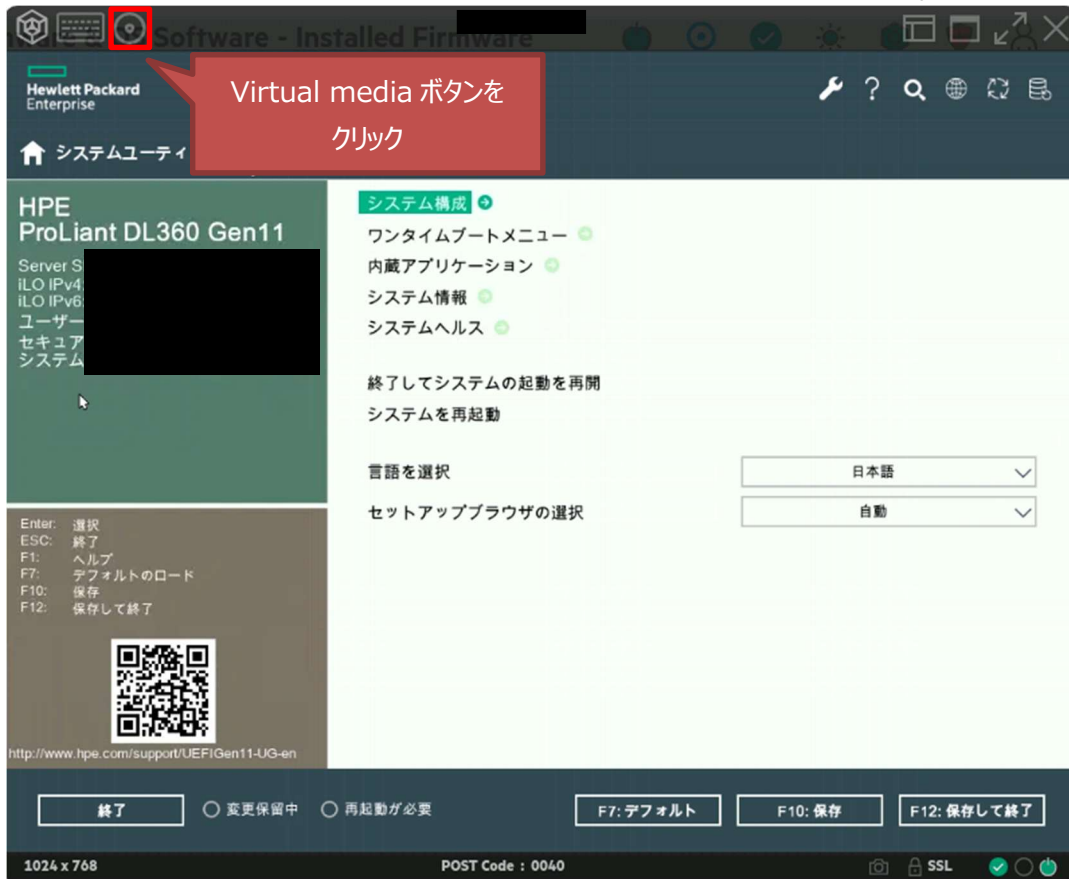
5.1. OS インストール (UEFI)

UEFI 画面(システムユーティリティ)を使って、OS をインストールします。

1. 起動画面で「F9」キーを押します。



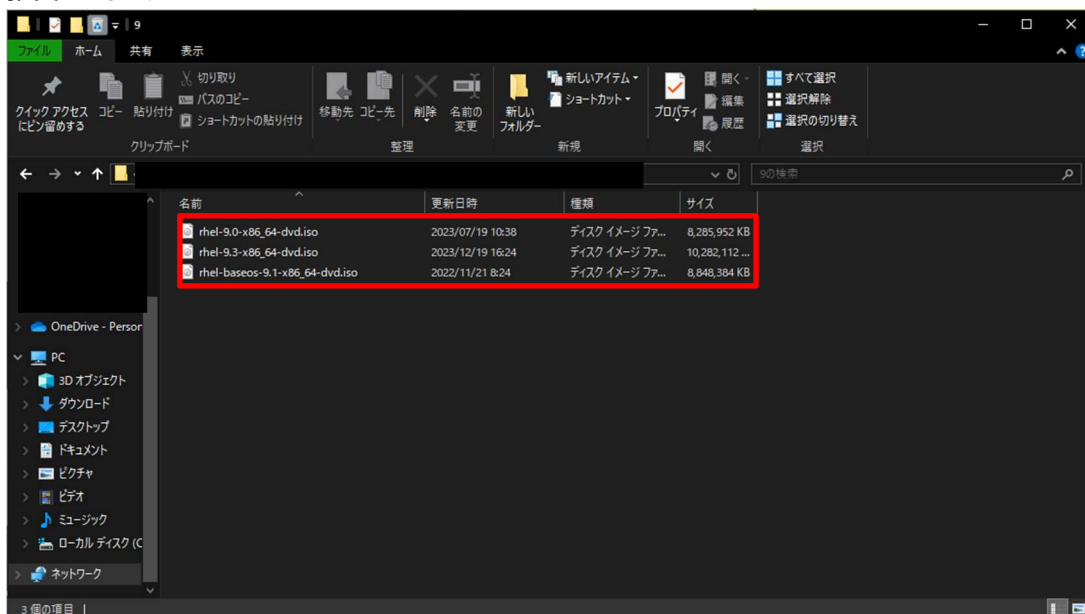
2. UEFI が起動したら、仮想アクセス画面上の Virtual media ボタンをクリックし、CD/DVD->Local *.iso file をクリックします。



3. インストールする OS の ISO image を指定します。

※ISO image のアップロード時の通信品質により OS インストールが失敗することがあります。

そのため、インストールメディア（ISO image 等）は可能な限り、サーバーと伝送経路上に近い端末に配置して作業されることを推奨いたします。



4. Media inserted の表記が出たことを確認します。



5. ワンタイムブートメニュー->iLO Virtual USB をクリックします。



6. 以降は OS のセットアップメニューに従って設定を実施して下さい。

※仮想アクセス画面を閉じると ISO ファイルのマウントも外れてしまうため、OS インストール作業中は仮想アクセス画面を閉じないようにして下さい。

※インストールが進んでいる間は、仮想アクセス画面左下のアクセスインジケータが緑点滅します。

もしインジケータが消灯し、仮想アクセス画面上で OS インストールの進捗が見られなければ OS インストールが失敗している可能性があるため、お手数ですが再度この項目の最初(5. OS インストール(UEFI))からやり直して下さい。

警告：

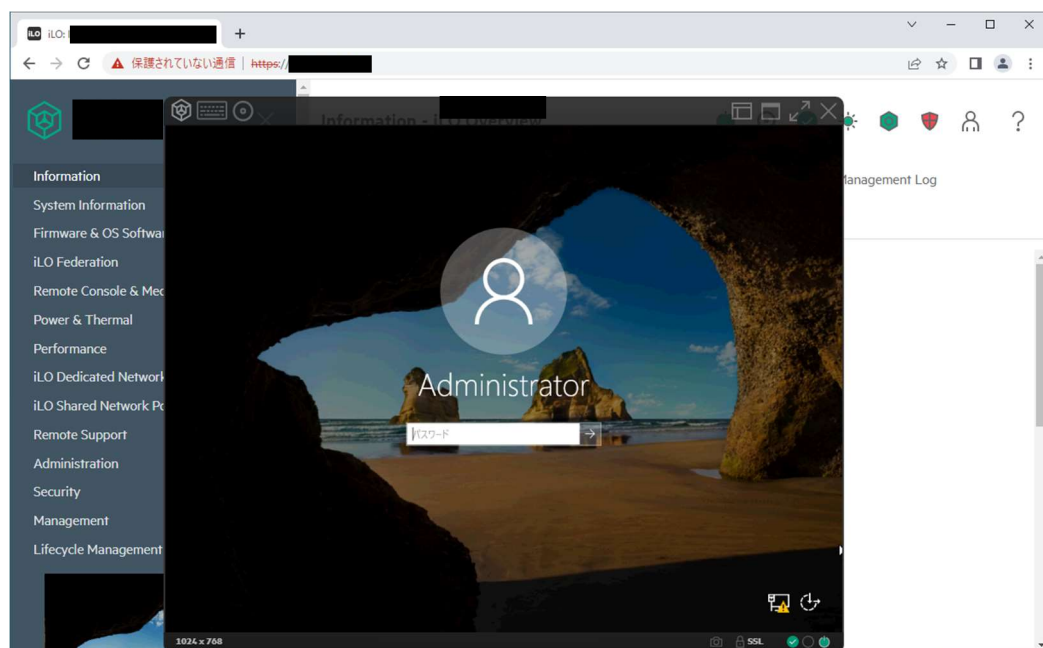
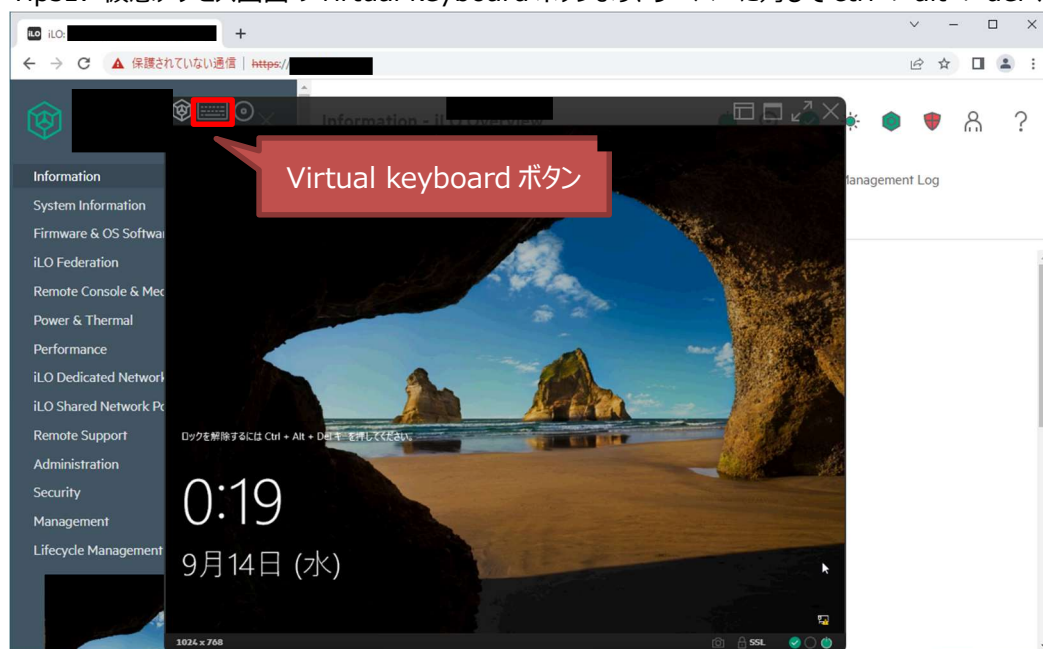
OS 側で Trusted Platform Module(TPM)を使用してディスク暗号化が実施されている場合は故障交換後にリカバリーキーの入力が必要なケースがあります。お客様側にて OS 内にてリカバリーキーの取得と管理をお願いします。リカバリーキーが正しく保管・管理されず、サーバー内データが暗号化解除できずに消失する場合はお客さま責任となります。



アクセスインジケータ

6. Tips

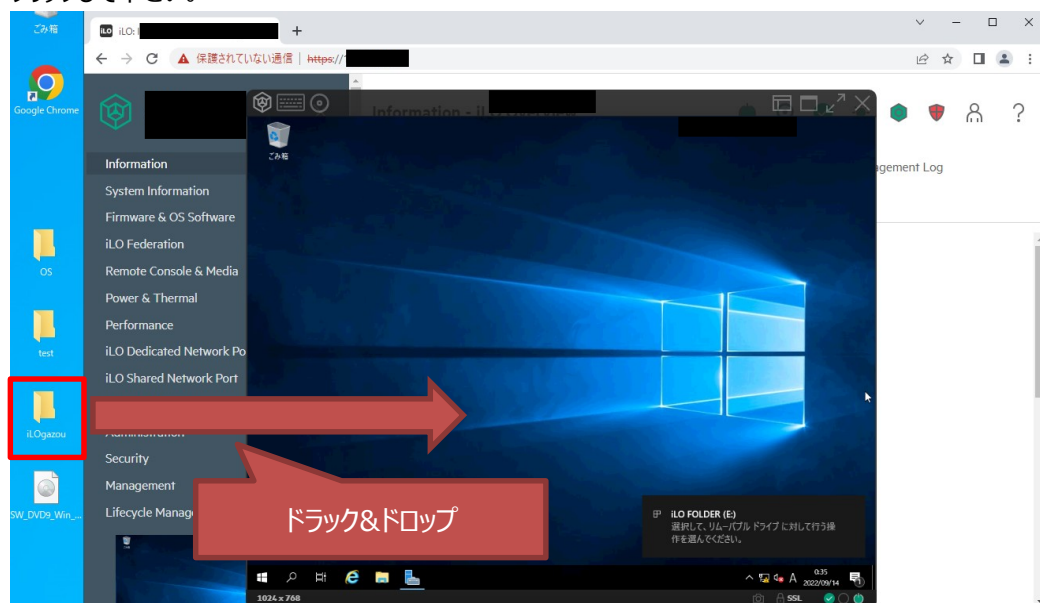
Tips1. 仮想アクセス画面の virtual keyboard ボタンより、サーバーに対して ctrl + alt + del 等のキーを送ることができます。



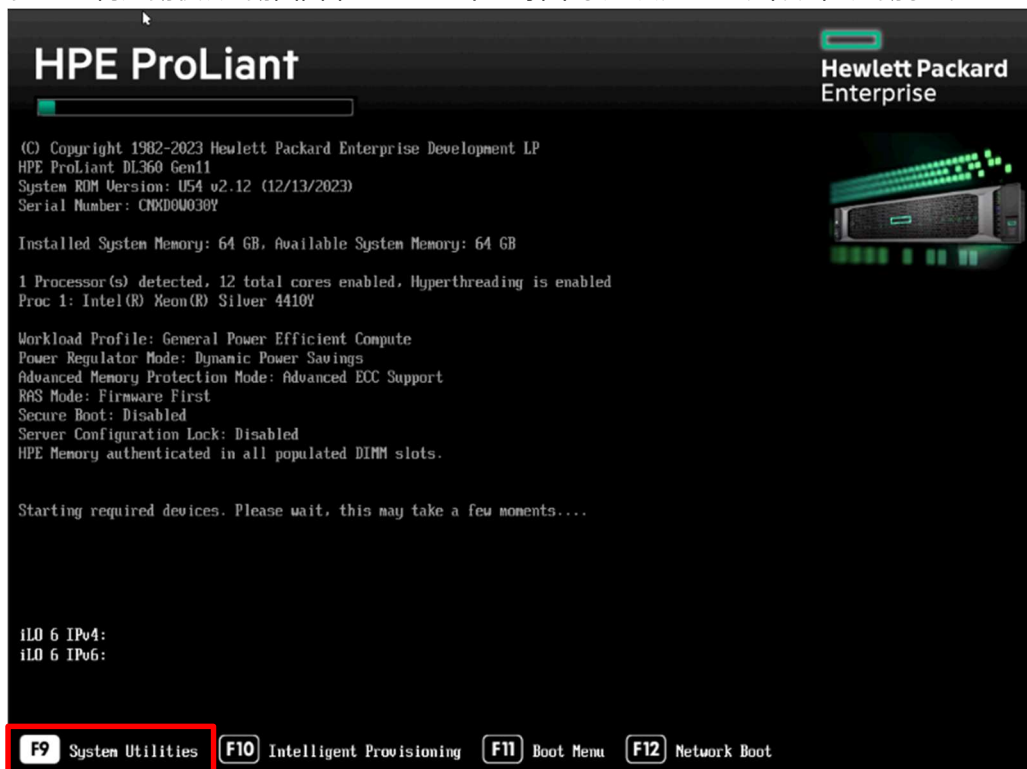
Tips2. OS にフォルダをマウントしたい場合は、仮想アクセス画面にフォルダをドラック&ドロップすることで認識させることができます。

※Microsoft windows の場合は iLO FOLDER("x":), Linux ディストリビューションでは、「/dev/sd"x"」(x は任意の英字)のデバイス名で認識されます。

※デバイスを取り外す場合は、仮想アクセス画面の Virtual Media ボタンをクリックし、Virtual folder->Force Eject Media をクリックして下さい。



Tips3. CPU の負荷が高く、CPU 温度の上昇を抑えたい場合、FAN の設定を変える事により改善する可能性があります。
サーバー再起動後、起動画面中に <F9>キーを押下し、システムユーティリティを起動します。



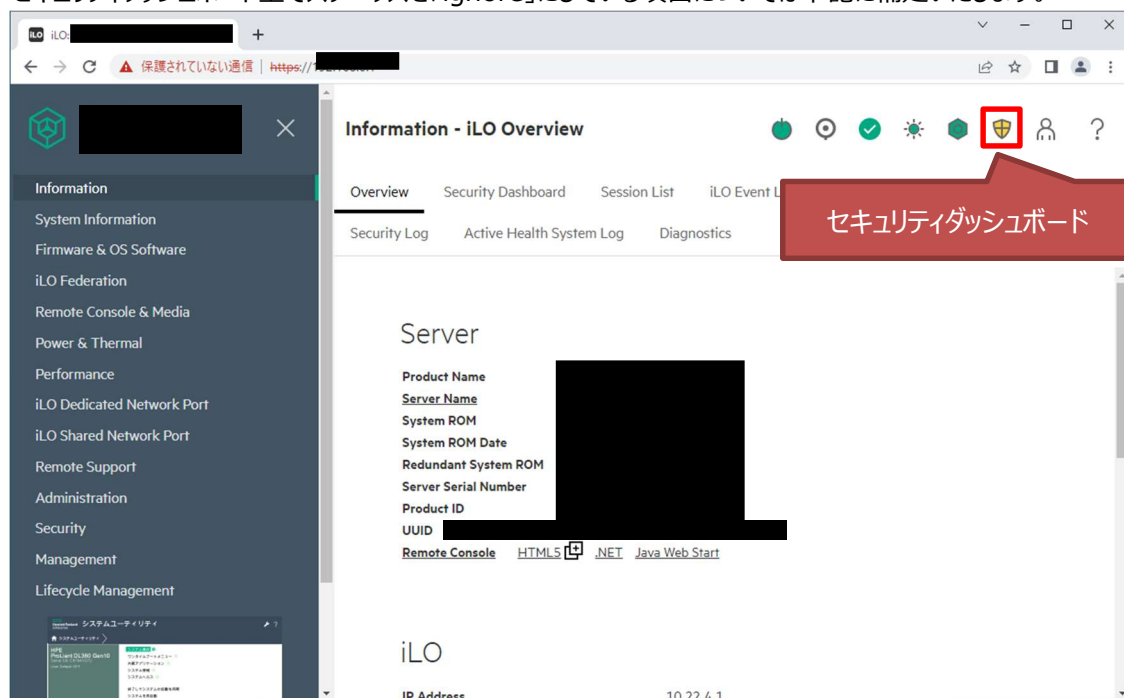
システム構成->BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU) ->アドバンスドオプション->ファンと温度のオプションを選択し、
温度構成メニューで任意の冷却方法に設定します。



Tips4. セキュリティダッシュボードではハードウェアのセキュリティ状態を確認できます。

本項目は本サービスに沿った設定にしておりますのでご了承ください。

セキュリティダッシュボード上でステータスを「ignore」にしている項目については下記に補足いたします。



項目名	デフォルト値	状態	変更理由
Secure Boot	Disabled	Ignore(無視)	改竄されたソフトウェアの実行を防ぐ機能です。 「Enabled」にすると OS の機能が一部使えなくなる可能性があるため、 ステータスを「ignore」に設定しています。
Default SSL Certificate In Use	True	Ignore(無視)	SSL 証明書に関する項目です。 本サービスではハードウェアに標準搭載の証明書を使用しているため ステータスを「ignore」に設定しています。

Tips5. ※管理機能ネットワークに接続しているお客様用

Windows server ライセンスのライセンス認証用 proxy 設定について

windows server のライセンス認証を行う場合、管理機能ネットワーク配下の proxy サーバに接続することで、認証することが可能です。

1. Windows server にログインし、ホーム画面右下の検索欄から“cmd”と入力しコマンドプロンプトを起動します。

2. コマンドプロンプトで下記コマンドを実行します。

```
netsh winhttp set proxy http://198.18.2.10:3128
```

現在の WinHTTP プロキシ設定:

```
プロキシ サーバー: http://198.18.2.10:3128  
バイパス一覧      : (なし)
```

3. コマンドプロンプトで下記コマンドを実行します。

```
slmgr /ato
```

4. ダイアログが表示され「製品は正常にライセンス認証されました。」となっていることを確認します。



5. コマンドプロンプトで下記コマンドを実行し、Proxy 設定を初期化します。

```
netsh winhttp reset proxy
```

現在の WinHTTP プロキシ設定:

```
直接アクセス (プロキシ サーバーなし)。
```

変更履歴

版数・日付	変更理由	変更内容
1.0 (2024.10.23)	新規作成	
1.1 (2026.03.25)	軽微な変更	TPM について追記